

## **第 5 章**

# **就学前児童の保護者を 対象とした調査**



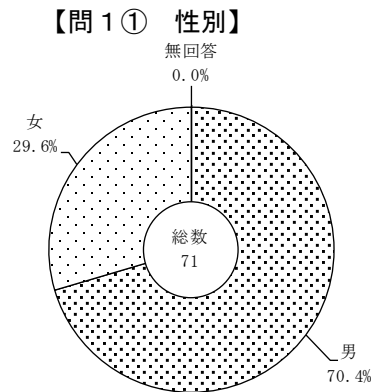
# 1. 子どもと家族について

## (1) 性別・年齢

問1 あて名のお子さんの性別と年齢をお答えください。

### ①性別

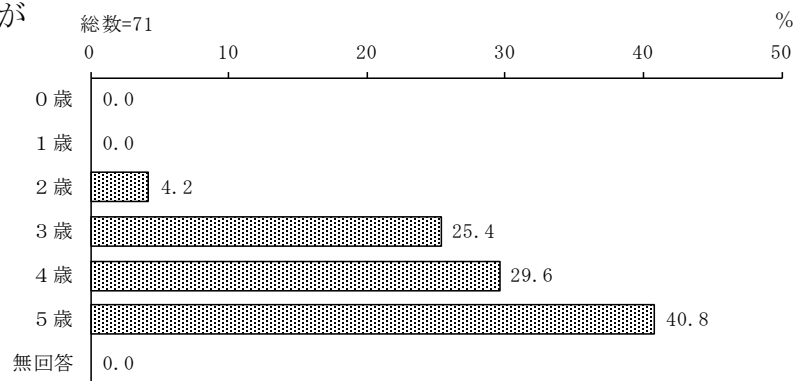
「男」が70.4%、「女」が29.6%となっています。



### ②年齢

「5歳」が40.8%と最も多く、次いで「4歳」が29.6%、「3歳」が25.4%となっています。

【問1② 年齢】



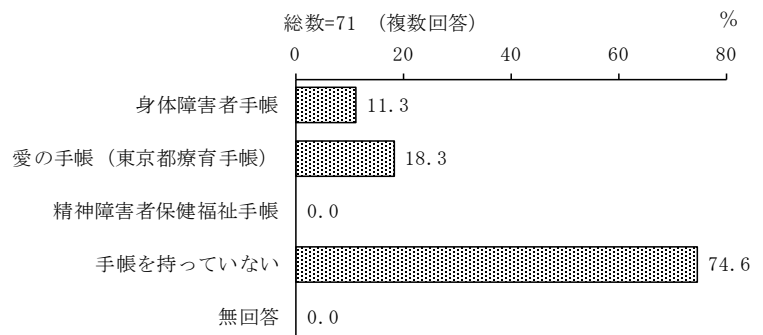
## (2) 手帳の所持状況

問2-① あて名のお子さんは障害者手帳をお持ちですか。(あてはまるものすべてに○) 申請中のものがあれば、【申請中】に○をつけてください。

### ①手帳の所持状況

「手帳を持っていない」が74.6%と最も多く、次いで「愛の手帳（東京都療育手帳）」が18.3%、「身体障害者手帳」が11.3%、「精神障害者保健福祉手帳」が0.0%となっています。

【問2-①-1 手帳の所持状況】



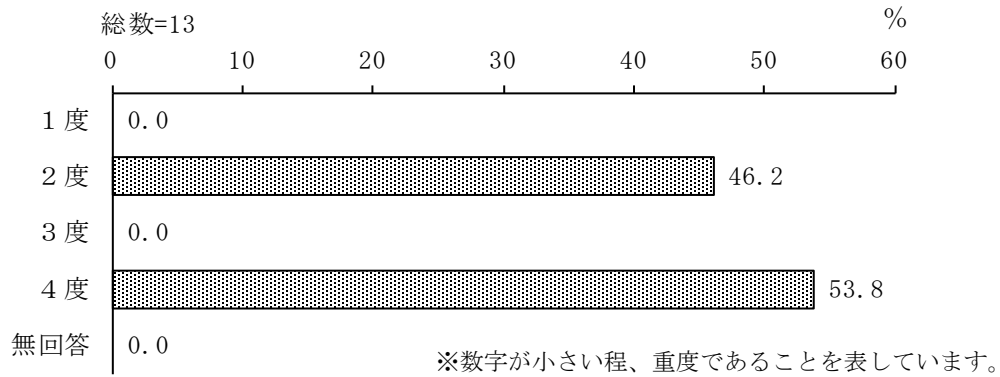
## ②身体障害者手帳の等級

8人中6人が「2級」、1人ずつが「1級」、「3級」と回答しています。

## ③愛の手帳の程度

「4度」が53.8%、「2度」が46.2%となっています。

### 【問2-①-3 愛の手帳の程度】



## ④申請中の手帳

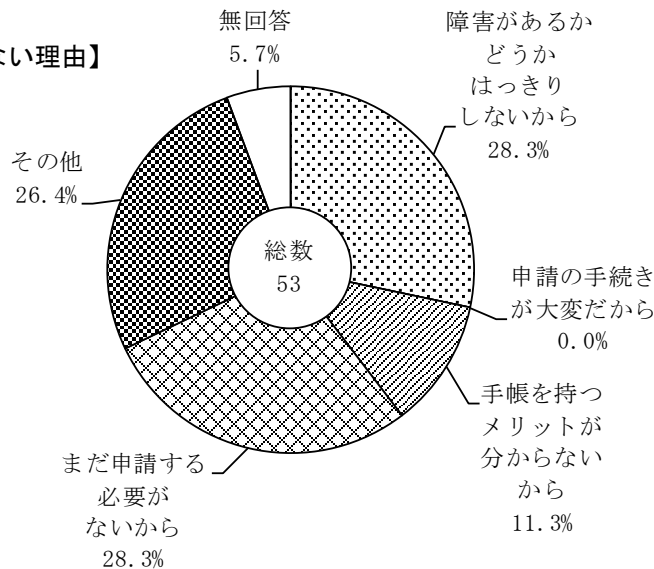
対象者は1人で、回答は「身体障害者手帳」と「愛の手帳（東京都療育手帳）」でした。

## (3) 手帳を持っていない理由

問2-② 問2-①で「手帳を持っていない」を選んだ方にお聞きします。手帳をお持ちでない理由について、次のうちからあてはまるものをお選びください。(1つに〇)

「障害があるかどうかははっきりしないから」と「まだ申請する必要がないから」がそれぞれ28.3%と最も多く、次いで「手帳を持つメリットが分からないから」が11.3%となっています。「その他」では、「障害があると思っていないから」、「申請できるレベルではないから」などの回答がありました。

### 【問2-② 手帳を持っていない理由】

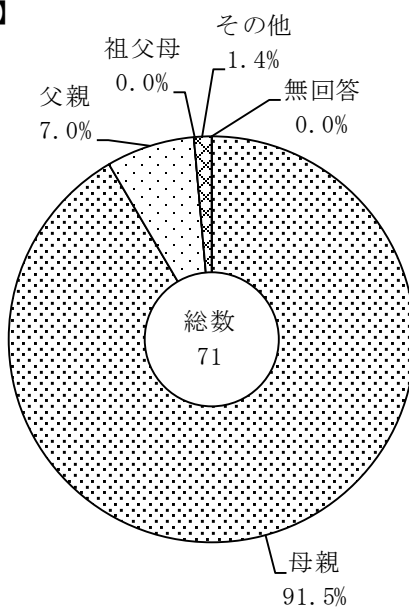


#### (4) 調査票の回答者

問3 この調査票にご回答いただいている方はどなたですか。あて名のお子さんからみた関係をお選びください。(1つに○)

「母親」が91.5%と特に多くなっています。次いで「父親」が7.0%となっています。

【問3 調査票の回答者】

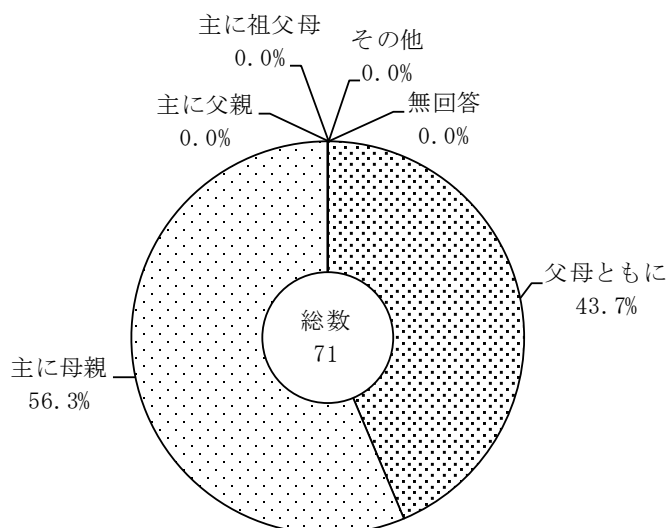


#### (5) 子育てを主にしている人

問4 あて名のお子さんの子育てを主にしている方はどなたですか。(1つに○。続柄はお子さんから見た関係です)

「主に母親」が56.3%と最も多く、次いで「父母ともに」が43.7%となっています。

【問4 子育てを主にしている人】



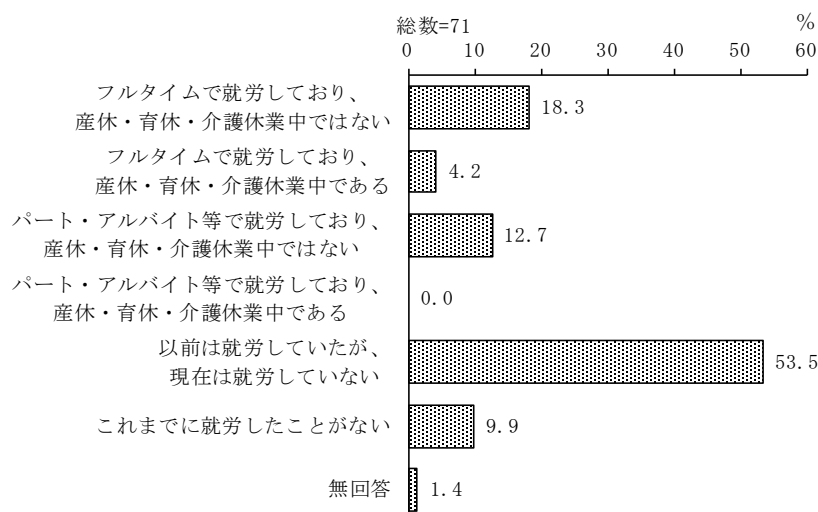
## (6) 保護者の就労状況

問5 保護者の方の現在の就労状況について、次の中からあてはまるものを選んでください。(1つに○)

### ①母親の就労状況について

「以前は就労していたが、現在は就労していない」が53.5%と最も多く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が18.3%、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が12.7%、「これまでに就労したことがない」が9.9%となっています。

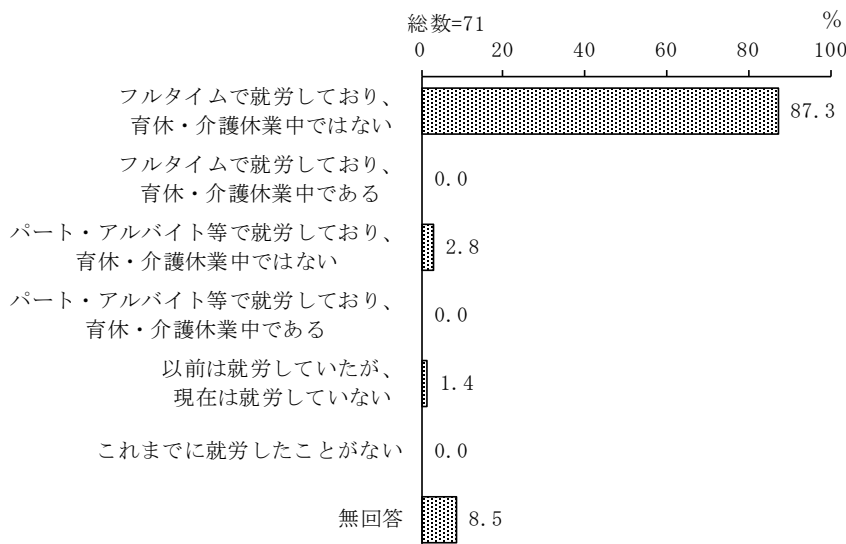
【問5① 保護者の就労状況（母親の就労状況について）】



### ②父親の就労状況について

「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が87.3%と特に多くなっています。

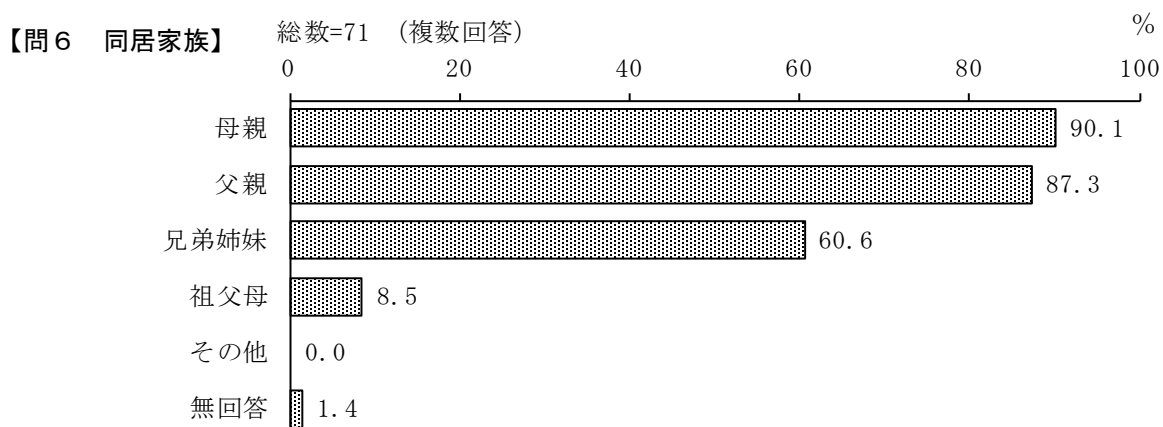
【問5② 保護者の就労状況（父親の就労状況について）】



## (7) 同居家族

問6 あなたを含め、お子さんと同居している家族はどなたですか。  
(あてはまるものすべてに○。続柄はお子さんからみてのものです。)

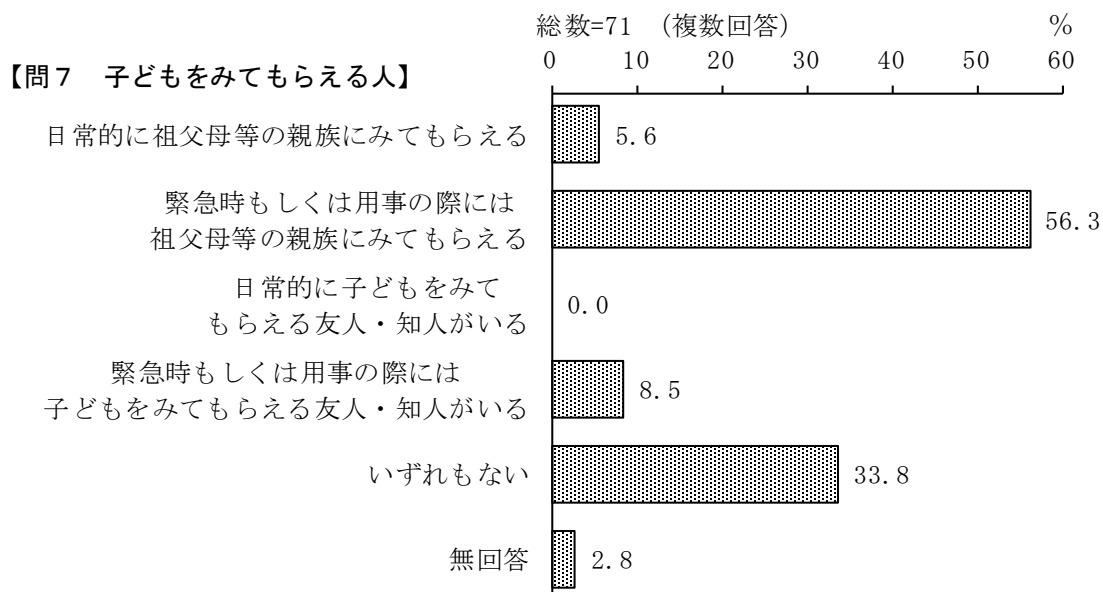
「母親」が90.1%と最も多く、次いで「父親」が87.3%、「兄弟姉妹」が60.6%、「祖父母」が8.5%となっています。



## (8) 子どもをみてもらえる人

問7 日頃、あて名のお子さんをみてもらえる人はいますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が56.3%と最も多く、次いで「いずれもない」が33.8%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が8.5%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が5.6%となっています。

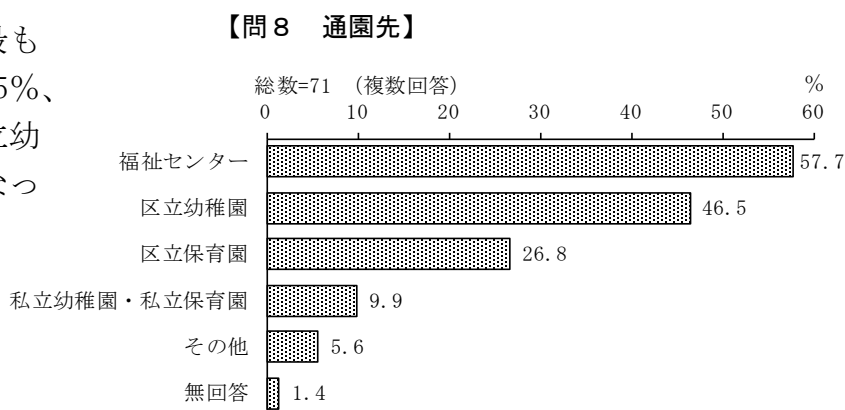


## 2. 幼稚園・保育園等での生活について

### (1) 通園先

問8 平日の昼間、あて名のお子さんは次のうちのどちらに通われていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「福祉センター」が57.7%と最も多く、次いで「区立幼稚園」が46.5%、「区立保育園」が26.8%、「私立幼稚園・私立保育園」が9.9%となっています。



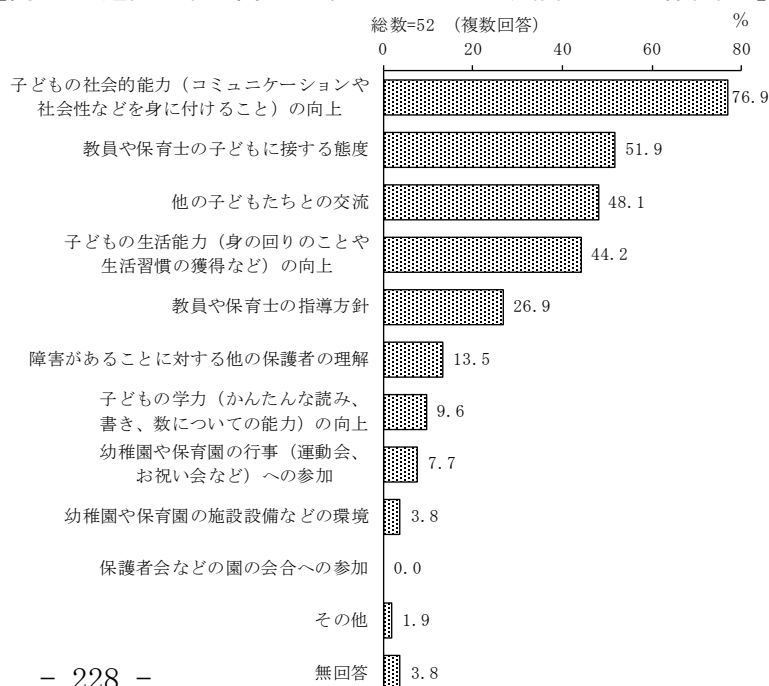
【以下問9～11は問8で「お子さんが区立幼稚園・区立保育園に通っている」に○をつけた方に伺いました】

### (2) 通園生活で関心のあること (区立幼稚園・区立保育園)

問9 あて名のお子さんが区立幼稚園や区立保育園での生活を送る上で、保護者として特に関心のあることを次のうちからお選びください。  
(特にあてはまるものを3つまで○)

「子どもの社会的能力 (コミュニケーションや社会性などを身に付けること) の向上」が76.9%と最も多く、次いで「教員や保育士の子どもに接する態度」が51.9%、「他の子どもたちとの交流」が48.1%、「子どもの生活能力 (身の回りのことや生活習慣の獲得など) の向上」が44.2%、「教員や保育士の指導方針」が26.9%となっています。

#### 【問9A 通園生活で関心のあること (区立幼稚園・区立保育園)】





通園先別に見た場合も、全体の傾向とほぼ同じ結果となっています。

【問9B 通園生活で関心のあること（区立幼稚園・区立保育園）（通園先別）】

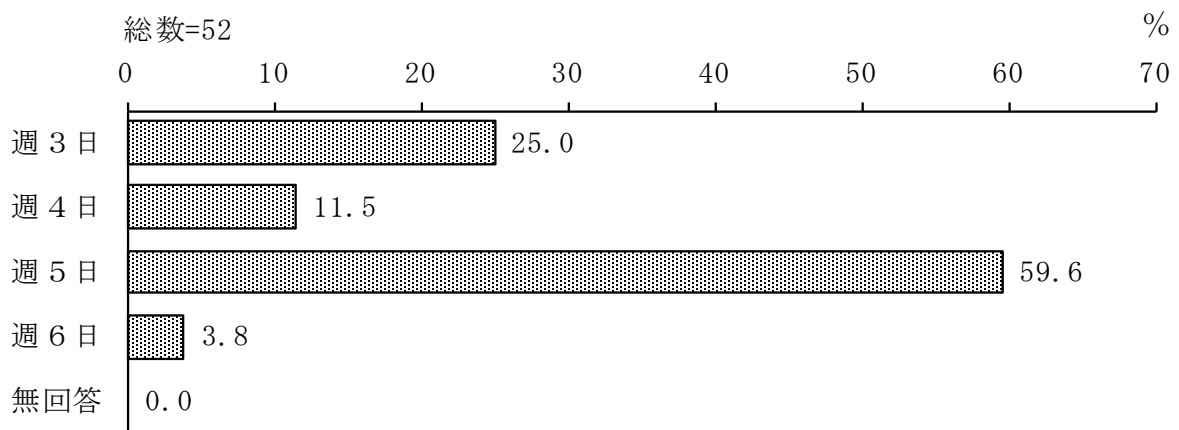
	全体	教員や保育士の指導方針	子どもや保育士の態度	読み、書き、数に力をつけることへの向上	子どもの学力（かんたんなの獲得など）の向上	子どもの生活能力（身の回りのことや生活習慣）の向上	子どもの社会的能力（コミュニケーションや社会性など）の向上	幼稚園や保育園の施設設備などの環境	他の子どもたちとの交流	（運動会、お祝い会など）への参加	幼稚園や保育園の行事への参加	保護者会などの参加	障害があることに対する理解	その他	無回答
上段：実数 下段：割合	52 100.0	14 26.9	27 51.9	5 9.6	23 44.2	40 76.9	2 3.8	25 48.1	4 7.7	-	7 13.5	1 1.9	2 3.8		
通園先	区立幼稚園	33 100.0	12 36.4	20 60.6	2 6.1	14 42.4	27 81.8	1 3.0	16 48.5	1 3.0	-	4 12.1	1 3.0	-	
	区立保育園	19 100.0	2 10.5	7 36.8	3 15.8	9 47.4	13 68.4	1 5.3	9 47.4	3 15.8	-	3 15.8	-	2 10.5	

### （3）通園日数

問10 区立幼稚園や区立保育園には週に何日（平均で）通っていますか。

「週5日」が59.6%と最も多く、次いで「週3日」が25.0%、「週4日」が11.5%となっています。

【問10 通園日数】

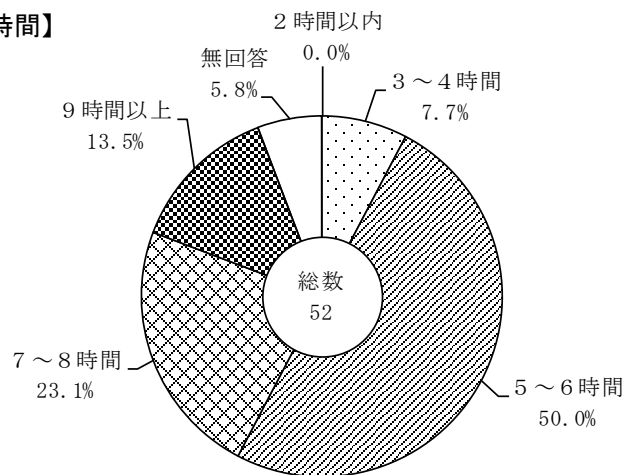


#### (4) 保育時間

問 11 区立幼稚園・保育園での1日あたりの保育時間は平均で何時間ですか。  
(1つに○)

「5～6時間」が50.0%と最も多く、次いで「7～8時間」が23.1%、「9時間以上」が13.5%、「3～4時間」が7.7%となっています。

【問 11 保育時間】



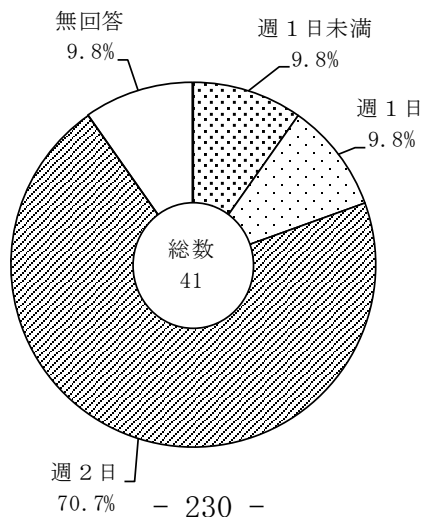
#### 【問 12・13 は、お子さんが福祉センターに通園している保護者の方に伺いました】

#### (5) 福祉センターへの通園日数

問 12 福祉センターには週に何日通っていますか。

「週2日」が70.7%と特に多くなっています。次いで「週1日未満」と「週1日」がそれぞれ9.8%となっています。

【問 12 福祉センターへの通園日数】

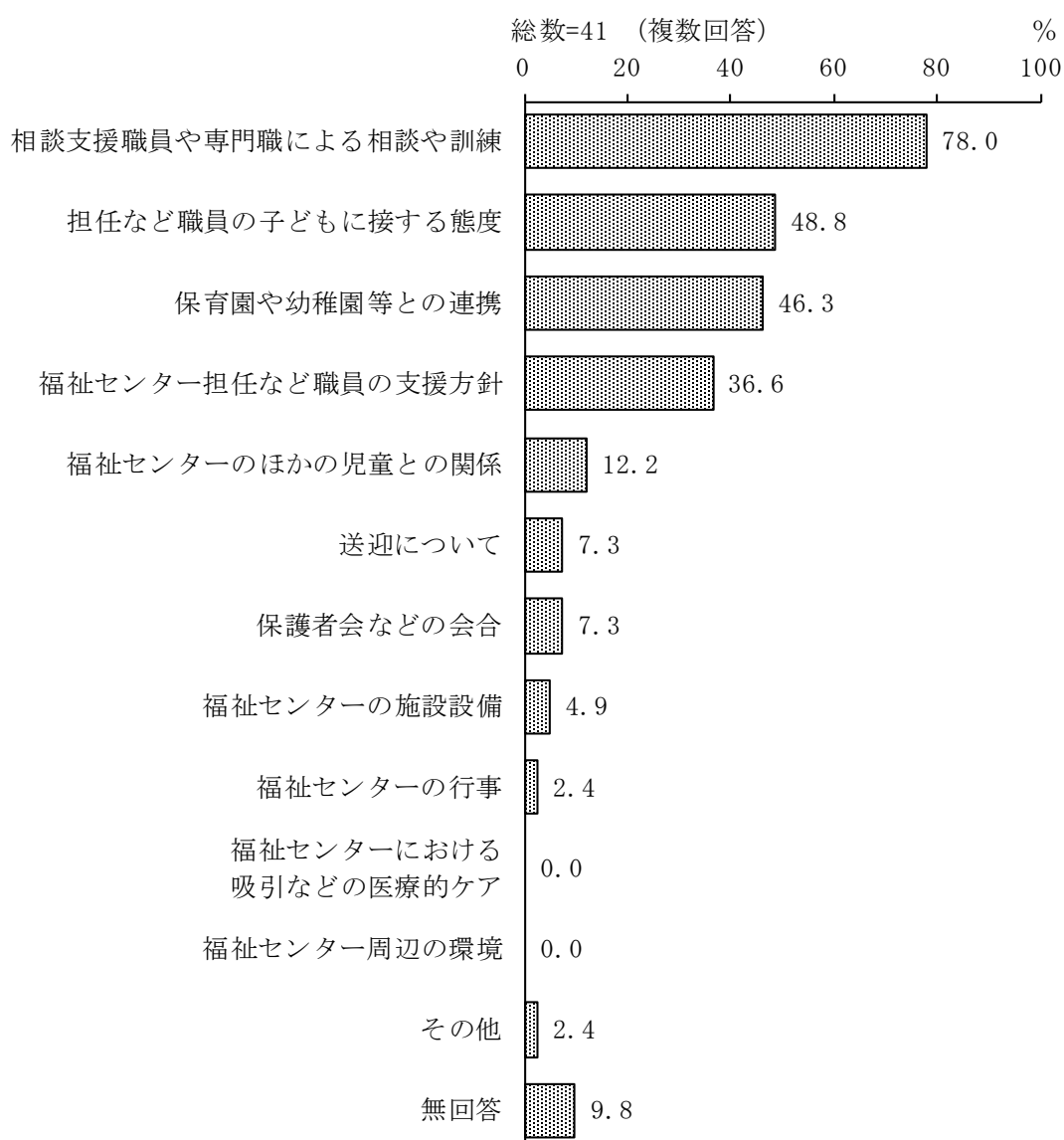


## (6) 通園生活で関心のあること (福祉センター)

問 13 福祉センターの通園に対して、保護者として特に関心のあることを次のうちからお選びください。(特にあてはまるものを3つまで○)

「相談支援職員や専門職による相談や訓練」が78.0%と最も多く、次いで「担任など職員の子どもに接する態度」が48.8%、「保育園や幼稚園等との連携」が46.3%、「福祉センター担任など職員の支援方針」が36.6%、「福祉センターのほかの児童との関係」が12.2%となっています。

【問 13 通園生活で関心のあること (福祉センター)】



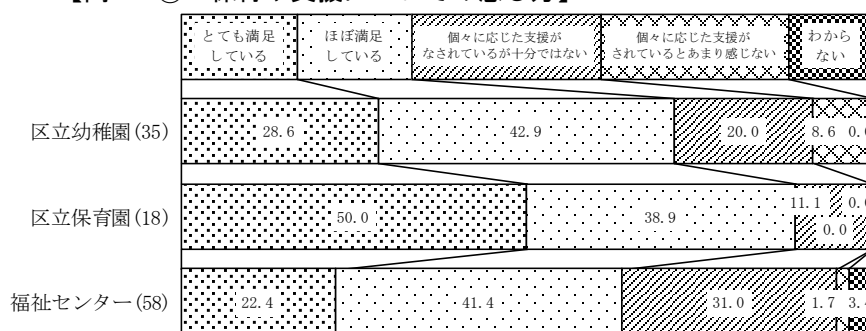
## (7) 保育や支援についての感じ方

問 14-① 現在の区立幼稚園・保育園や福祉センターでの保育や支援について、どのように感じていますか。あて名のお子さんが通われているすべての施設について、枠の中にあてはまる数字を下記より選び、1つ番号を記入してください。

全般に「とても満足している」、「ほぼ満足している」が多くなっていますが、福祉センターでは「個々に応じた支援がなされているが十分ではない」が31.0%とやや多くなっています。

【問 14-① 保育や支援についての感じ方】

単位:%



※ 無回答は省いています。

## (8) 保育や支援の問題を解決するために必要なこと

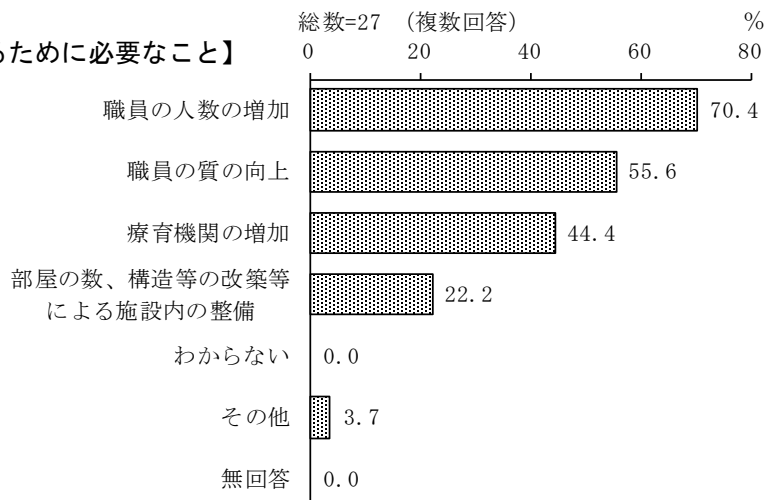
問 14-② 問 14-①で「個々に応じた支援がされていると十分に／あまり感じない」を選択した方にお聞きします。

その問題を解決するにはどうすればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

「職員の人数の増加」が70.4%と最も多く、次いで「職員の質の向上」が55.6%、「療育機関の増加」が44.4%、「部屋の数、構造等の改築等による施設内の整備」が22.2%となっています。

【問 14-② 保育や支援の問題を解決するために必要なこと】



## (9) 保育や支援についての意見

問 14-③ 問 14-①で「個々に応じた支援がされていると十分に／あまり感じない」を選択した方にお聞きします。区立幼稚園・保育園、福祉センターの保育や支援について、その他ご意見等がありましたらご記入ください。

保育や支援についての意見は 21 件ありました。「専門職の支援」についての意見が 5 件と最も多く、次いで「通園回数」が 4 件、「職員の人数」と「説明不足」がそれぞれ 3 件となっています。

### 【問 14-③ 保育や支援についての意見】

上段：実数 下段：割合	総数	専門職の支援	通園回数	職員の人数	説明不足	職員の質	その他
自由意見	21 100.0	5 23.8	4 19.0	3 14.3	3 14.3	2 9.5	8 38.1

### ◆主な意見（内容は要約・省略しています）

#### ①専門職の支援

「専門職による訓練の機会を増やしてほしい。」（男性／手帳なし）

「福祉センターの ST・OT の回数が、一人あたり足りないと感じております。」（男性／知的障害）

「OT・ST による個別の訓練が一律 4 歳（？）以上と決まっているが、個々の状況、病状に応じて、もう少し早い時期からも対応していただけるとありがたい。」（男性／手帳なし）

「ST の回数を増やしてほしいです。」（女性／知的障害）

#### ②通園回数

「今は隔週一日の為、もの足りなさを感じる。」（女性／手帳なし）

「週 2 日、1 時間半の療育では足りていないのではないかと感じます。できれば、毎日通いたいくらいです。」（男性／身体障害、知的障害）

「福祉センターの利用を希望する子供が多く、利用の回数が限られているのが残念。」（男性／手帳なし）

「福祉センター通園の日数が少ない。他の区は週4日か5日通所している。」（男性／身体障害、知的障害）

### ③職員の人数

「3月以降の引っ越しだったのでサポートの先生の補充をしてもらえなかったのが残念。」（男性／手帳なし）

「職員の人数を増加してほしい。職員の質が劣っているとは思わないが、手がまわらず特別支援を受けているようには感じられない。」（男性／手帳なし）

### ④説明不足

「先生によって子供には少しわかりにくい説明をしている時がある。」（女性／手帳なし）

「入園前から子供にとって必要なこと（支援として）を具体的に伝えると、『うちの子だけの先生ではないから』とか、『うちの子だけを見ているわけではないので』と必ず言われ、初登園の日から特別支援としての個別の声掛けもないので、親子共にどうしていいのかわからない不安な日々だった。」（男性／手帳なし）

「人数が少ないせいか、とにかく説明が雑すぎる。センターの考え方と保護者、保育園との連動がとれていない。」（男性／手帳なし）

### ⑤職員の質

「療育に対する考えが古い。もっと最新の療育方法を身に付けた専門知識を持った人材を現場の先生として登用すべし。」（男性／手帳なし）

「保育士全体に対して、障害理解に関する研修を文京区としてして頂きたい。例えば、文京区の障害者団体とアレンジして、該当する幼児の障害に合わせて、指導を受けてほしい。」（男性／身体障害）

### ⑥その他

「各施設と連携をとり（医師、教員、福祉センター等）より質の高い支援と共通した支援方針をもとに対応して頂きたいと思っています。」（女性／知的障害）

「肢体不自由児向けのリハビリ用具など、センターにはほとんどなく、設備がほとんど整っていない。リハビリに通っていてもあまり向上するとは思えない。また、ST・OTの先生が、少ない。」（女性／身体障害）

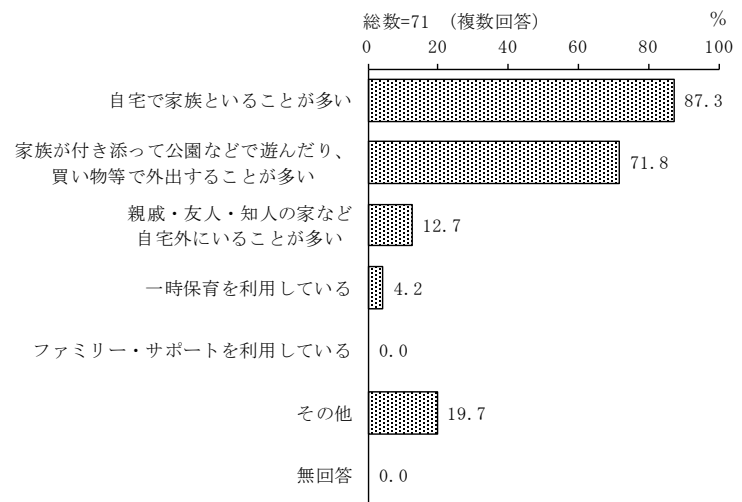
### 3. 日々の生活について

#### (1) 帰宅後や休日の過ごし方

問 15 幼稚園、保育園、福祉センターからの帰宅後や通っていない日（土曜や日曜、夏休み中など）、あて名のお子さんはどのように過ごすことが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

「自宅で家族といることが多い」が87.3%と最も多く、次いで「家族が付き添って公園などで遊んだり、買い物等で外出することが多い」が71.8%、「親戚・友人・知人の家など自宅外にすることが多い」が12.7%となっています。「その他」では、「習い事をしている」などの回答がありました。

【問 15 帰宅後や休日の過ごし方】



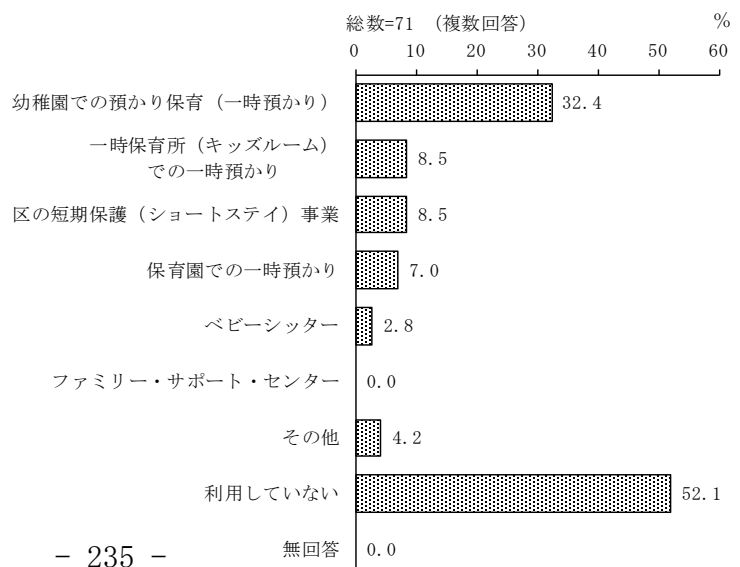
#### (2) 不定期の一時預かりの利用状況

問 16-① あて名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、**私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している区の一時預かり事業**はありますか。  
ある場合は、あてはまる答えの番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）もご記入ください。

##### ① 不定期の一時預かりの利用状況

「幼稚園での預かり保育（一時預かり）」が32.4%と最も多く、次いで「一時保育所（キッズルーム）での一時預かり」と「区の短期保護（ショートステイ）事業」がそれぞれ8.5%、「保育園での一時預かり」が7.0%となっています。「利用していない」は52.1%でした。

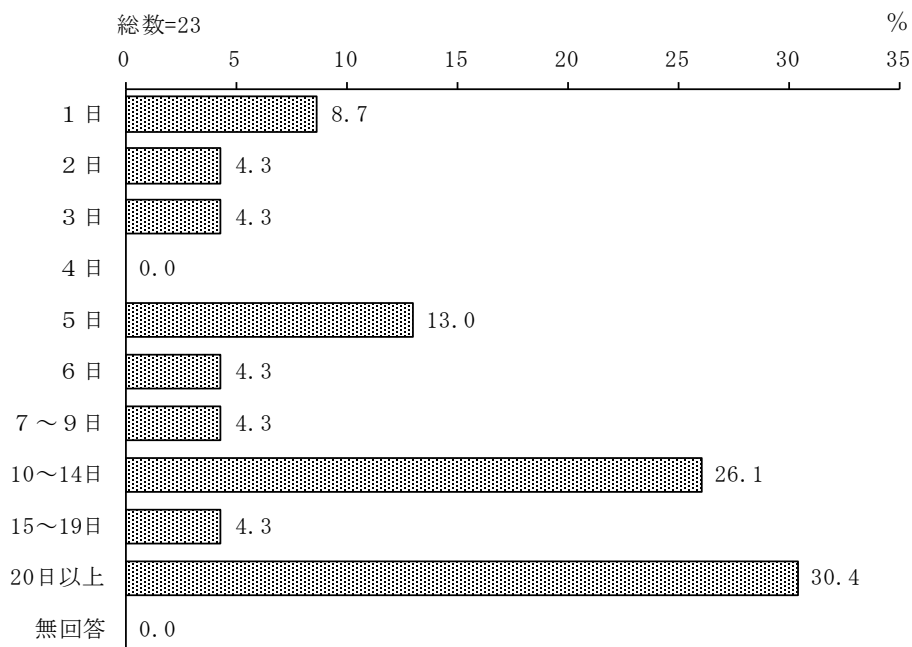
【問 16-①-1 不定期の一時預かりの利用状況】



## ②幼稚園での預かり保育（一時預かり）の年間利用日数

「20日以上」が30.4%と最も多く、次いで「10～14日」が26.1%、「5日」が13.0%、「1日」が8.7%となっています。

【問16-①-2 幼稚園での預かり保育（一時預かり）の年間利用日数】



## ③一時保育所（キッズルーム）での一時預かりの年間利用日数

6人中2人が「20日以上」、1人ずつが「2日」、「3日」、「6日」、「10～14日」と回答しています。

## ④区の短期保護（ショートステイ）事業の年間利用日数

6人中2人が「20日以上」、1人ずつが「2日」、「5日」、「7～9日」、「10～14日」と回答しています。

## ⑤保育園での一時預かりの年間利用日数

5人中2人ずつが「2日」、「10～14日」、1人が「1日」と回答しています。

## ⑥ベビーシッターの年間利用日数

2人中1人ずつが「6日」、「20日以上」と回答しています。

## ⑦その他の年間利用日数

3人中1人ずつが「4日」、「5日」と回答しています。

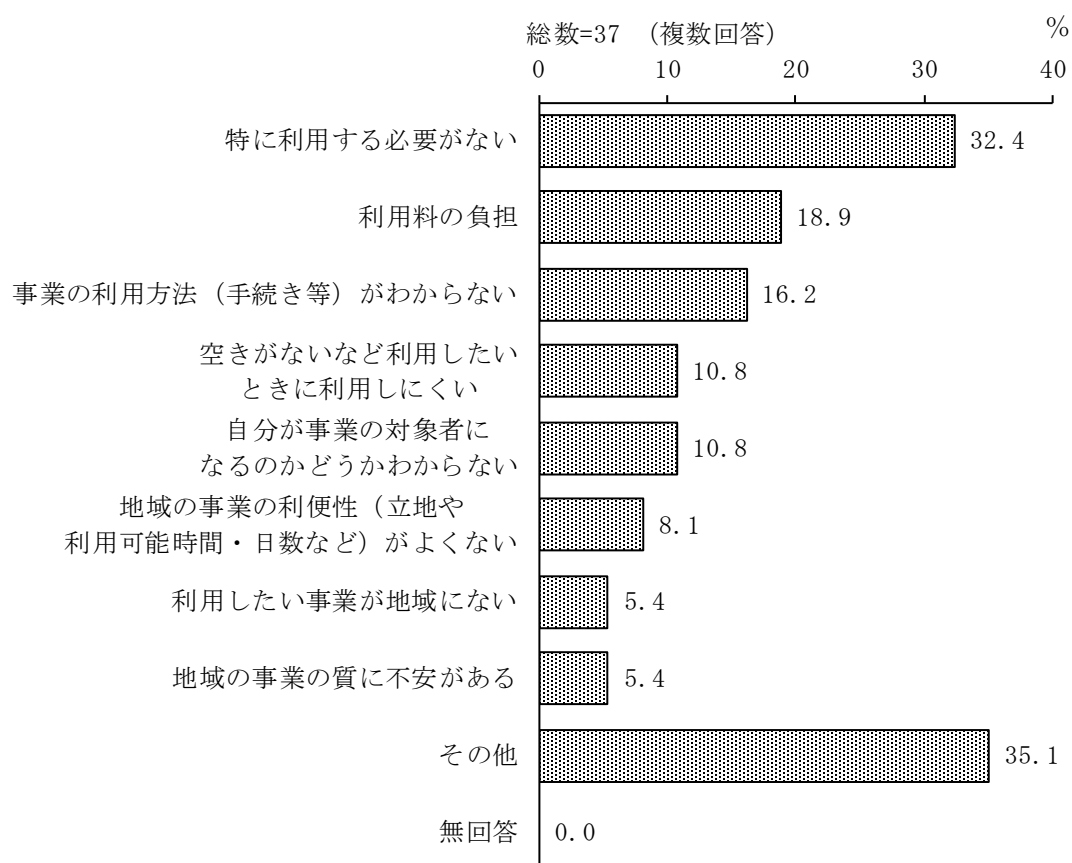


### (3) 不定期の一時預かりを利用していない理由

問 16-② 問 16-①で「利用していない」を選んだ方にお聞きします。  
 現在利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「特に利用する必要がない」が 32.4%と最も多く、次いで「利用料の負担」が 18.9%、「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が 16.2%、「空きがないなど利用したいときに利用しにくい」と「自分が事業の対象者になるのかどうかわからない」がそれぞれ 10.8%となっています。「その他」では、「ベビーシッターを利用している」、「母親と離れるのを不安がるから」などの回答がありました。

【問 16-② 不定期の一時預かりを利用していない理由】



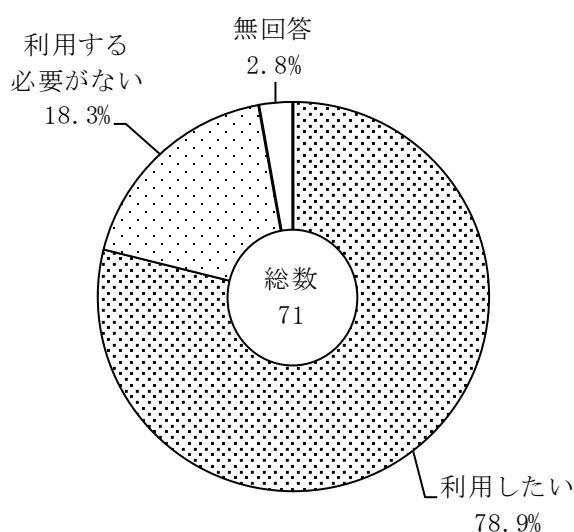
#### (4) 不定期の一時預かりの利用希望

問 17-① あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい一時預かり等の事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無についてあてはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください。

##### ① 不定期の一時預かりの利用希望

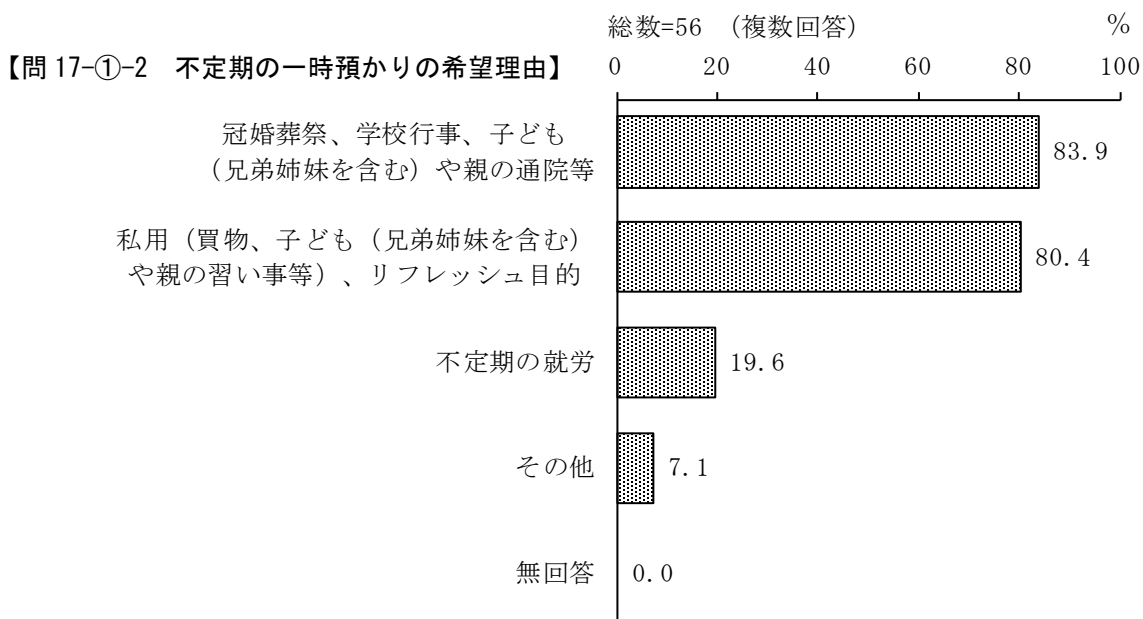
「利用したい」が78.9%、「利用する必要がない」が18.3%となっています。

【問 17-①-1 不定期の一時預かりの利用希望】



##### ② 不定期の一時預かりの希望理由

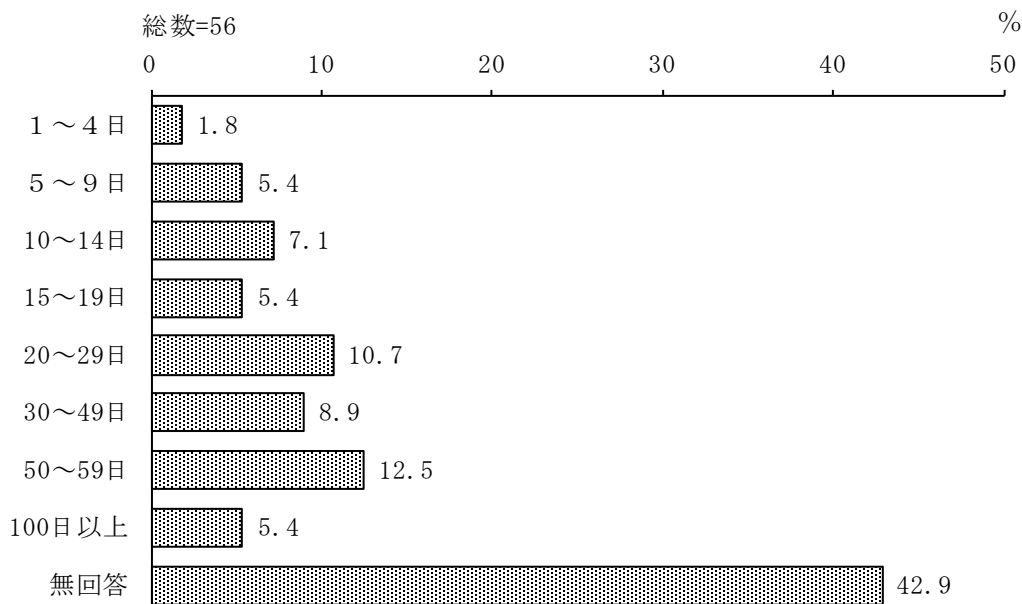
「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が83.9%と最も多く、次いで「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が80.4%、「不定期の就労」が19.6%となっています。



### ③年間利用希望日数（全体）

「50～59日」が12.5%と最も多く、次いで「20～29日」が10.7%、「30～49日」が8.9%、「10～14日」が7.1%となっています。

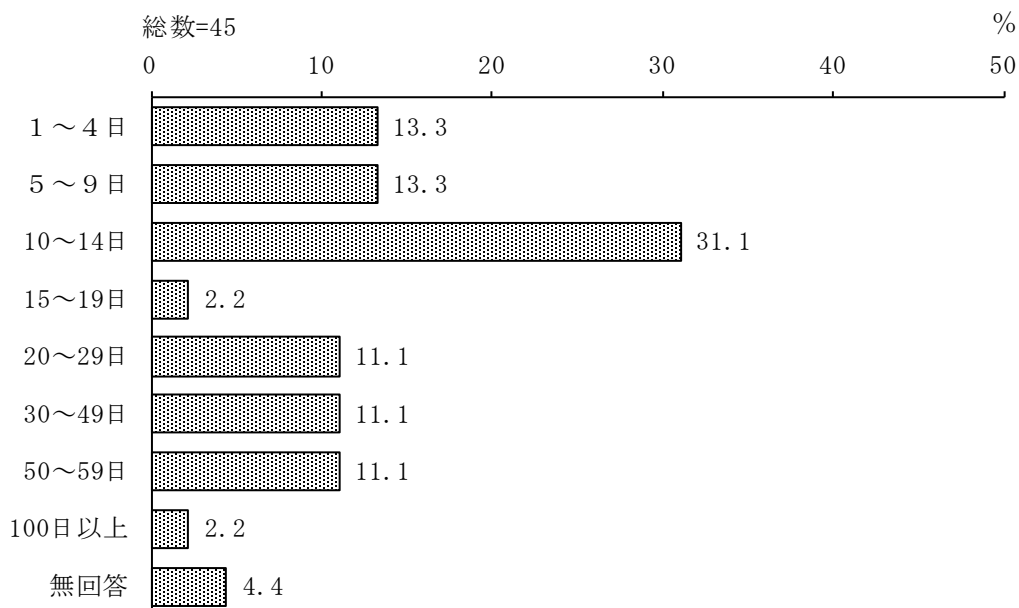
【問 17-①-3 年間利用希望日数（全体）】



### ④年間利用希望日数（私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的）

「10～14日」が31.1%と最も多く、次いで「1～4日」と「5～9日」がそれぞれ13.3%、「20～29日」、「30～49日」、「50～59日」がそれぞれ11.1%となっています。

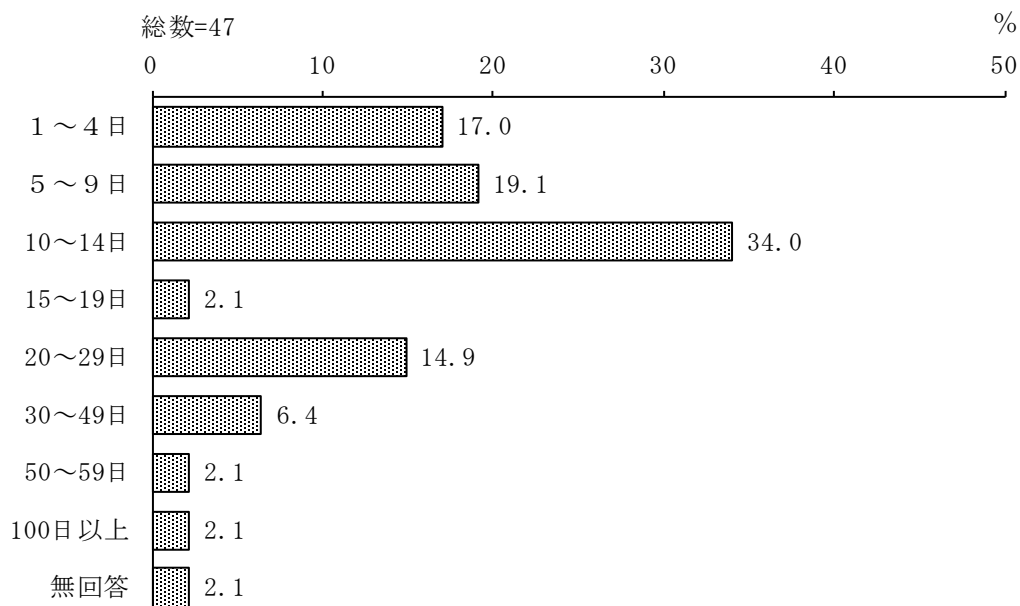
【問 17-①-4 年間利用希望日数（私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的）】



⑤年間利用希望日数（冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等）

「10～14日」が34.0%と最も多く、次いで「5～9日」が19.1%、「1～4日」が17.0%、「20～29日」が14.9% 「30～49日」が6.4%となっています。

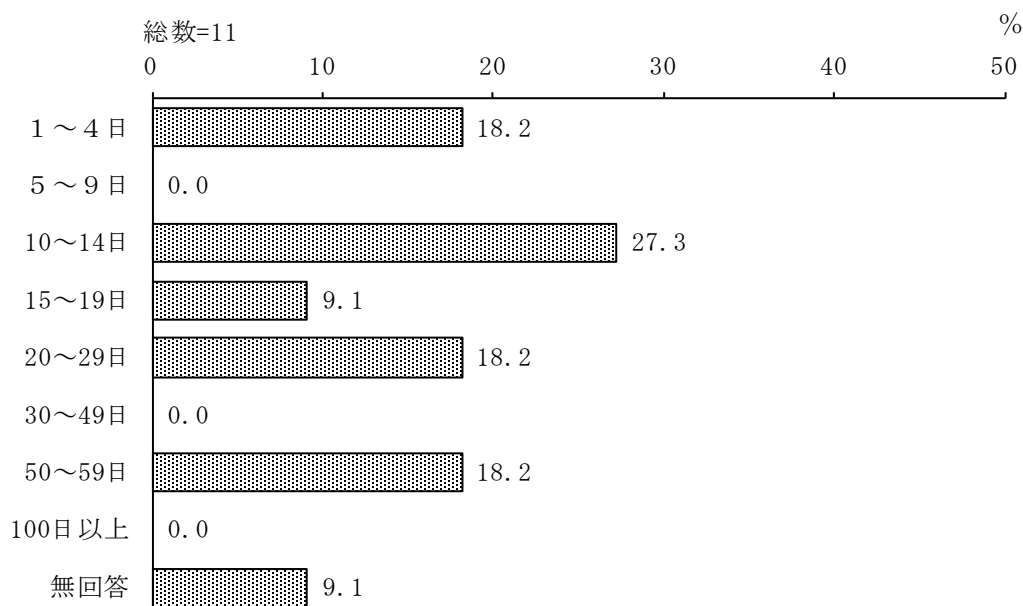
【問 17-①-5 年間利用希望日数（冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等）】



⑥年間利用希望日数（不定期の就労）

「10～14日」が27.3%と最も多く、次いで「1～4日」、「20～29日」、「50～59日」がそれぞれ18.2% 「15～19日」が9.1%となっています。

【問 17-①-6 年間利用希望日数（不定期の就労）】



⑦年間利用希望日数（その他）

4人中2人が「10～14日」、1人ずつが「1～4日」、「5～9日」と回答しています。

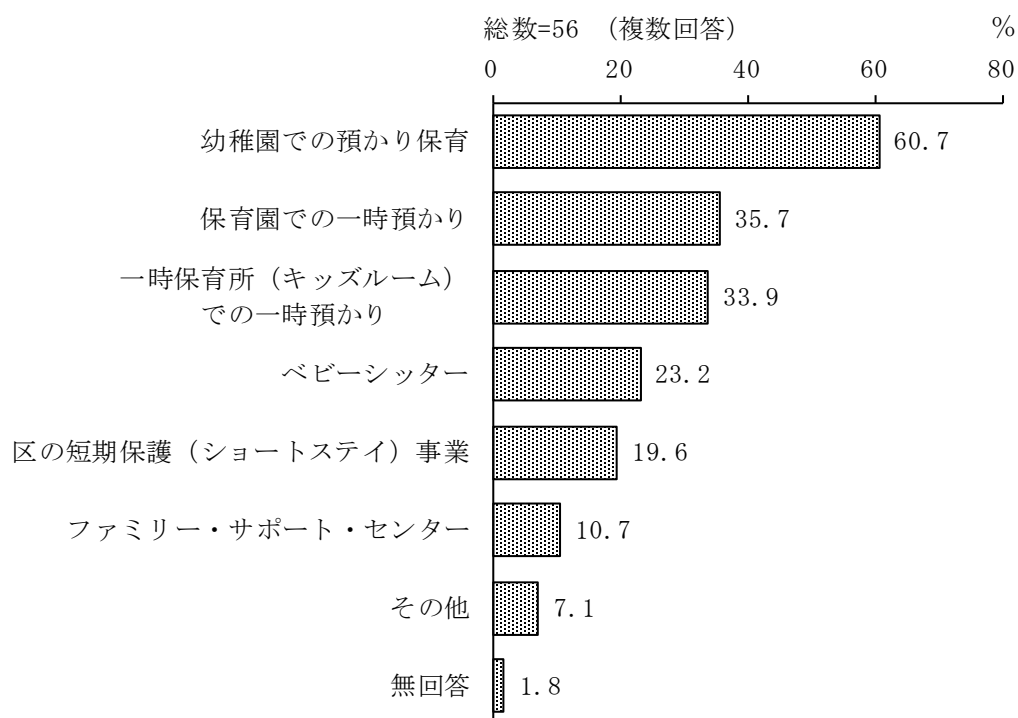
## (5) 希望する不定期の一時預かりの事業形態

問 17-② 問 17-①で「利用したい」を選んだ方にお聞きします。

問 17-①の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

「幼稚園での預かり保育」が 60.7%と最も多く、次いで「保育園での一時預かり」が 35.7%、「一時保育所（キッズルーム）での一時預かり」が 33.9%、「ベビーシッター」が 23.2%、「区の短期保護（ショートステイ）事業」が 19.6%となっています。

【問 17-② 希望する不定期の一時預かりの事業形態】



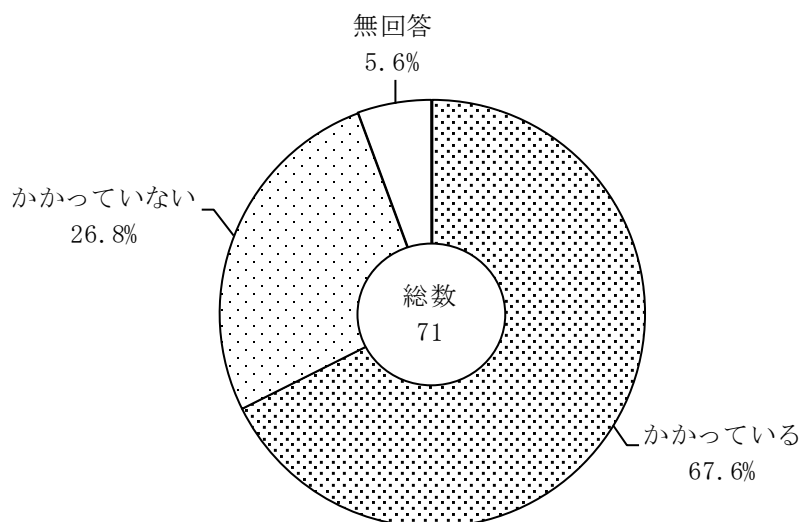
## (6) 医療機関の受診状況

問 18 あて名のお子さんはふだん（いくつの）医療機関にかかっていますか。

### ①医療機関の受診状況

「かかっている」が67.6%、「かかっていない」が26.8%となっています。

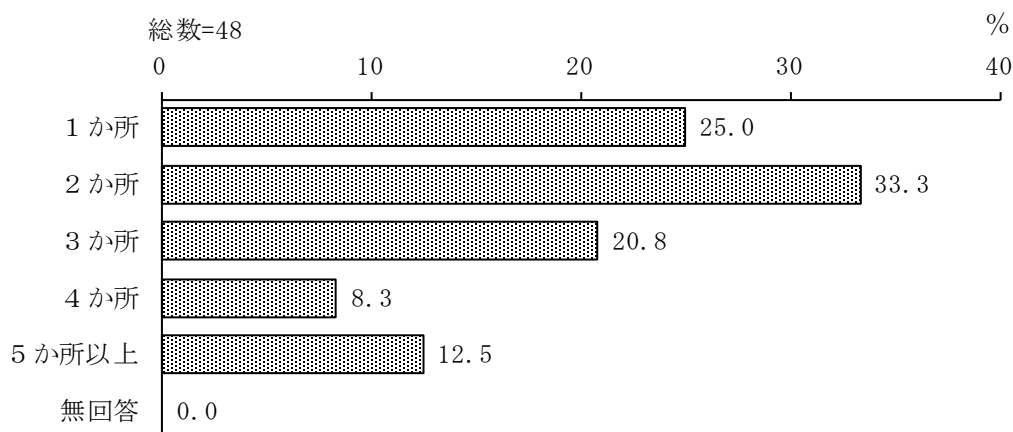
【問 18① 医療機関の受診状況】



### ②受診している医療機関の数

「2か所」が33.3%と最も多く、次いで「1か所」が25.0%、「3か所」が20.8% 「5か所以上」が12.5%、「4か所」が8.3%となっています。

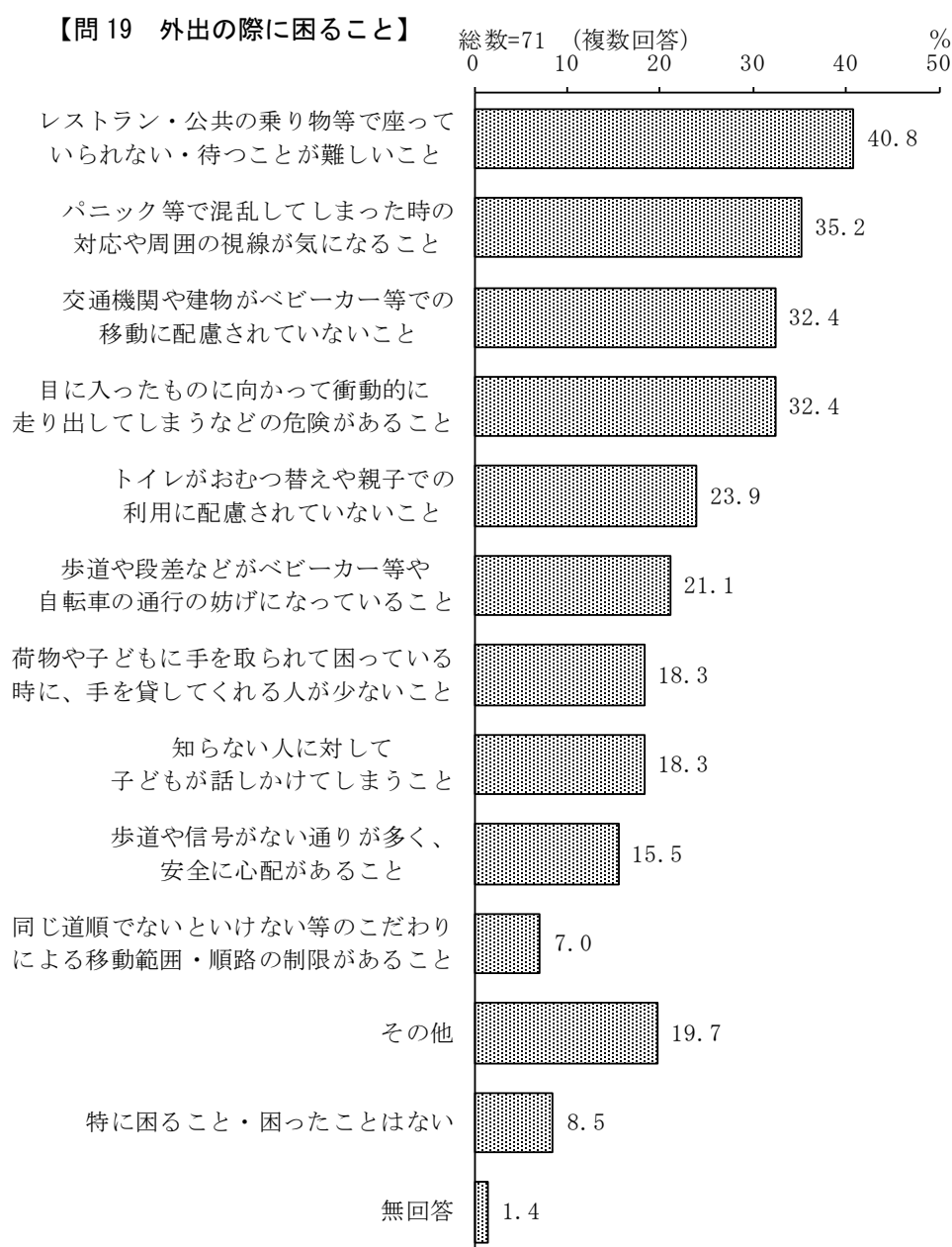
【問 18② 受診している医療機関の数】



## (7) 外出の際に困ること

問19 あなたがあて名のお子さんとの外出の際に、困ること・困ったことは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

「レストラン・公共の乗り物等で座ってられない・待つことが難しいこと」が40.8%と最も多く、次いで「パニック等で混乱してしまった時の対応や周囲の視線が気になること」が35.2%、「交通機関や建物がベビーカー等での移動に配慮されていないこと」と「目に入ったものに向かって衝動的に走り出してしまうなどの危険があること」がそれぞれ32.4%、「トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていないこと」が23.9%となっています。「その他」では、「大声を出してしまう」、「自転車の走行などが危険」などの回答がありました。

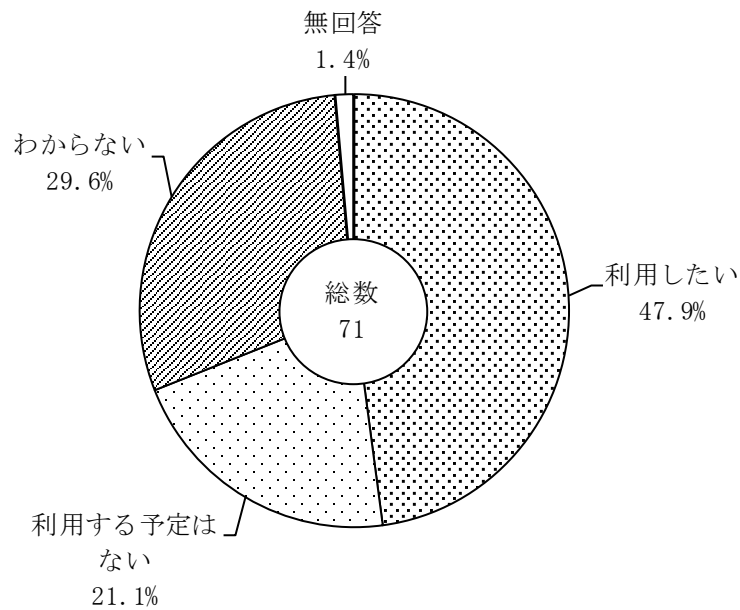


## (8) 学童保育事業（育成室）の利用希望

問 20 小学校に就学した後、学童保育事業（育成室）を利用したいと考えていますか。  
（1つに○）

「利用したい」が47.9%、「利用する予定はない」が21.1%となっています。

【問 20 学童保育事業（育成室）の利用希望】



### 学童保育事業（育成室）とは

保護者が日中就労しているなどのために家庭で保護が受けられない児童を、放課後、児童館や学校内等にある育成室でお預かりし、専任の職員が遊びを中心とした生活指導を行う事業のことです。



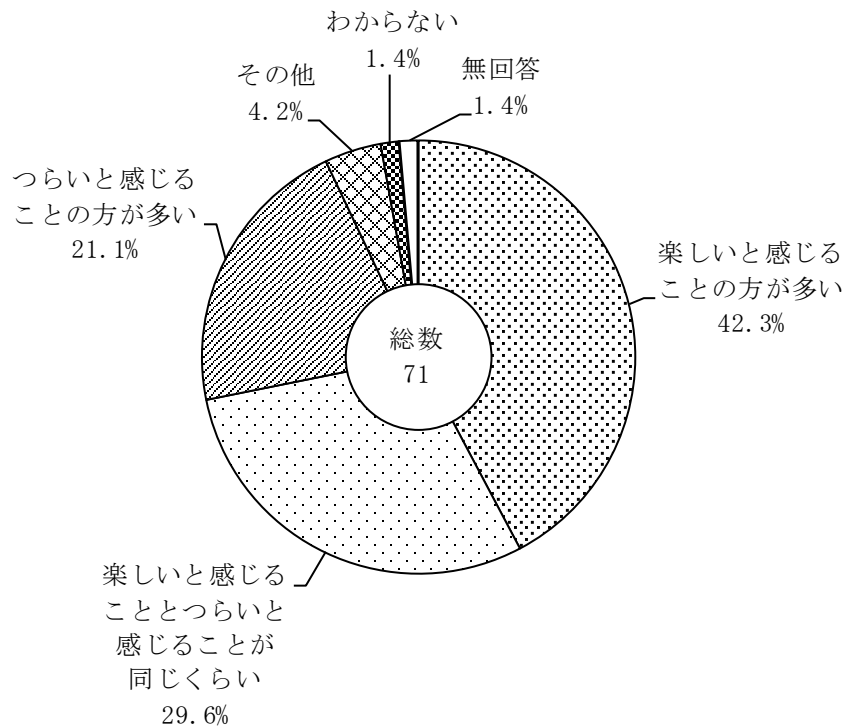
## 4. 子育てにおける悩み、不安に思っていること、支援策について

### (1) 子育ての感じ方

問 21 あなたは、自分にとって子育てを楽しいと感じることが多いと思いますか。それともつらいと感じることが多いと思いますか。(1つに○)

「楽しいと感じることが多い」が42.3%と最も多く、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が29.6%、「つらいと感じることが多い」が21.1%となっています。

【問 21 子育ての感じ方】

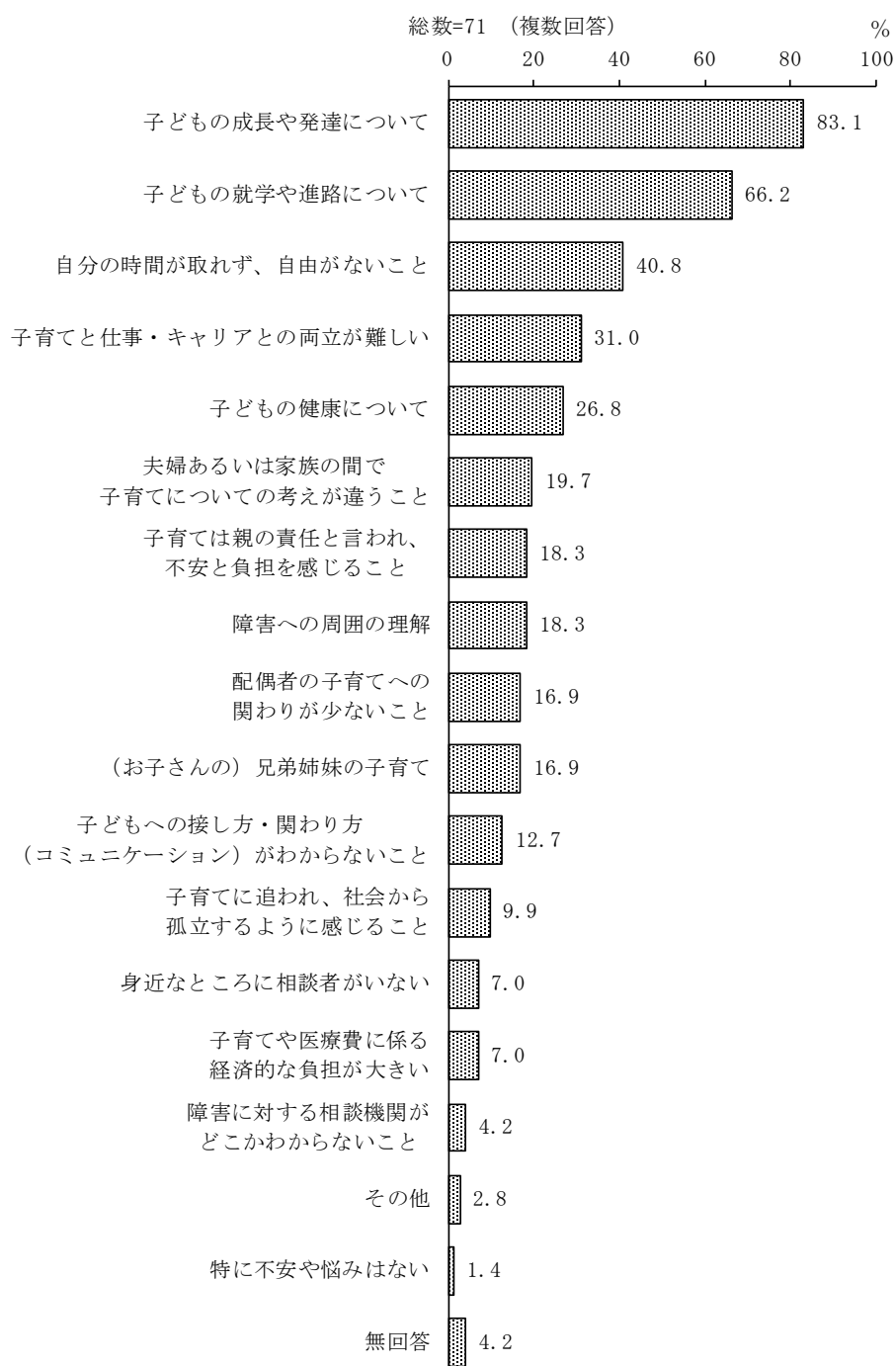


## (2) 子育てにおける悩みや不安

問 22 あなたが感じている子育てにおける悩みや不安について、あてはまるものを選びください。(特にあてはまるものを5つまで○)

「子どもの成長や発達について」が83.1%と最も多く、次いで「子どもの就学や進路について」が66.2%、「自分の時間が取れず、自由がないこと」が40.8%、「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」が31.0%、「子どもの健康について」が26.8%となっています。

【問 22A 子育てにおける悩みや不安】



「自分の時間が取れず、自由がないこと」という回答の割合は、つらいと感じることの方が多く方で多くなっています。

【問 22B 子育てにおける悩みや不安（子育ての感じ方別）】

上段：実数 下段：割合		全体	自由がないこと 自分の時間が取れず、	孤立するに追われ、社会から	子育てと仕事・キャリア	子育ては親の責任と	子育ては親の責任と	子育ては親の責任と	夫婦あるいは家族の間で	配偶者の子育てへの	子どもへの接し方・関わり方	子どもの成長や発達について	子どもの就学や進路について
全体		71 100.0	29 40.8	7 9.9	22 31.0	13 18.3	14 19.7	12 16.9	9 12.7	59 83.1	47 66.2		
子育ての感じ方	楽しいと感じることの方が多い	30 100.0	10 33.3	-	8 26.7	2 6.7	6 20.0	4 13.3	1 3.3	26 86.7	21 70.0		
	楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい	21 100.0	8 38.1	4 19.0	11 52.4	5 23.8	4 19.0	4 19.0	2 9.5	18 85.7	11 52.4		
	つらいと感じることの方が多い	15 100.0	9 60.0	2 13.3	3 20.0	5 33.3	4 26.7	4 26.7	3 20.0	10 66.7	11 73.3		
	その他	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-	-	2 66.7	3 100.0	3 100.0		
	わからない	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0	1 100.0	
	無回答	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	

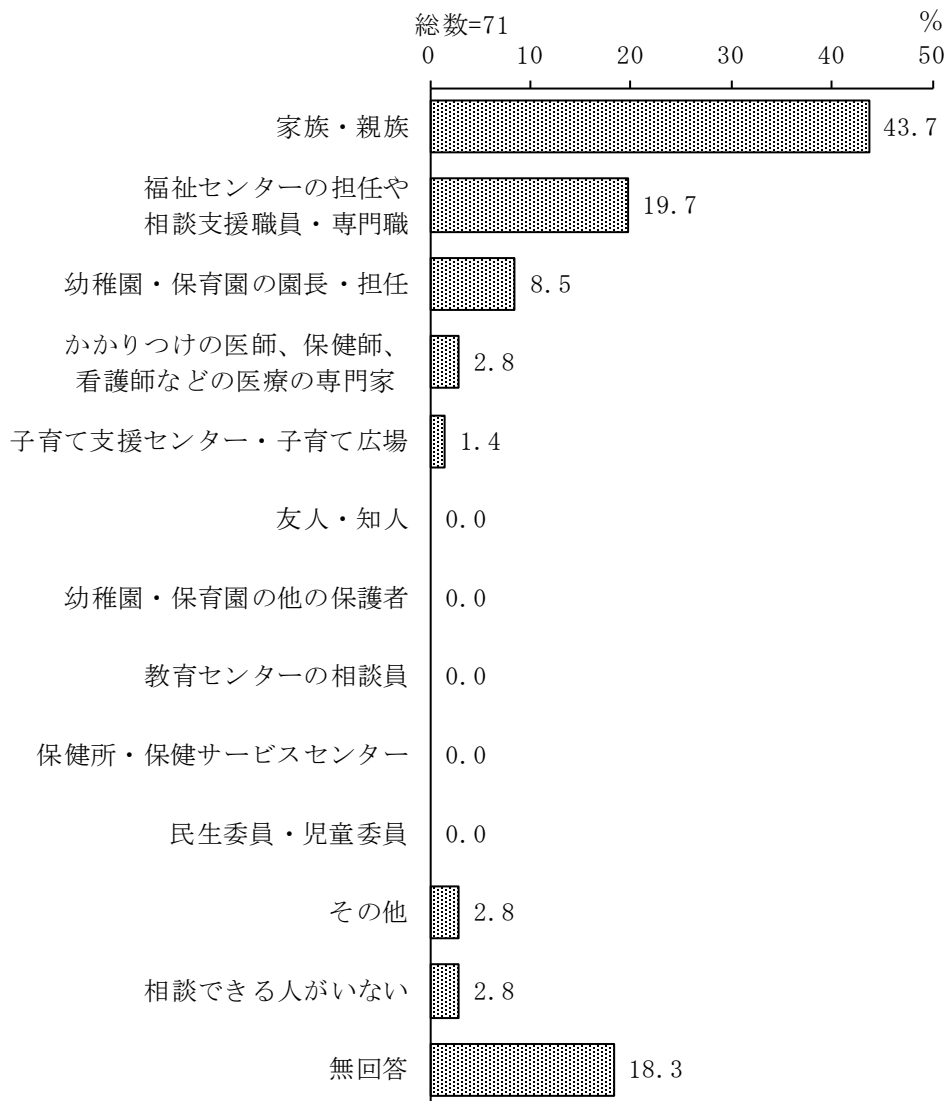
上段：実数 下段：割合		子どもの健康について	兄弟姉妹の子育て	障害への周囲の理解	障害に対する相談機関が	身近なところない	経済的な負担が大きい	子育てや医療費に係る	その他	特に不安や悩みはない	無回答
全体		19 26.8	12 16.9	13 18.3	3 4.2	5 7.0	5 7.0	2 2.8	1 1.4	3 4.2	
子育ての感じ方	楽しいと感じることの方が多い	12 40.0	3 10.0	5 16.7	2 6.7	2 6.7	2 6.7	-	1 3.3	-	
	楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい	2 9.5	4 19.0	4 19.0	1 4.8	-	2 9.5	-	-	2 9.5	
	つらいと感じることの方が多い	4 26.7	4 26.7	2 13.3	-	3 20.0	1 6.7	2 13.3	-	1 6.7	
	その他	-	-	1 33.3	-	-	-	-	-	-	-
	わからない	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-

### (3) 子どものことで相談する相手

問 23 あて名のお子さんのことで相談する場合、どなたに相談しますか。(1つに○)

「家族・親族」が43.7%と最も多く、次いで「福祉センターの担任や相談支援職員・専門職」が19.7%、「幼稚園・保育園の園長・担任」が8.5%となっています。

【問 23 子どものことで相談する相手】



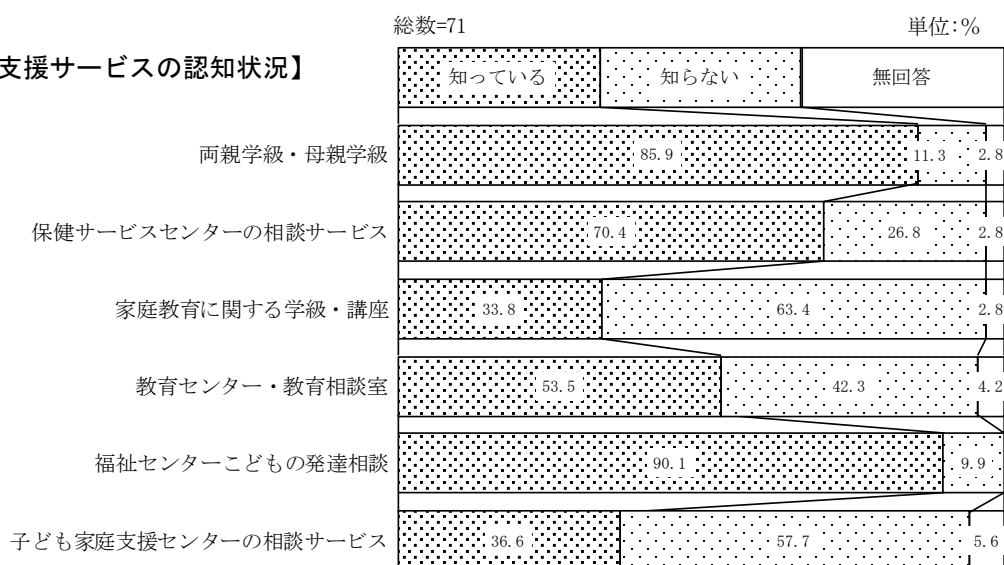
#### (4) 子育て支援サービスの認知状況・利用状況・利用希望

問 24 子育てに関する相談等の支援サービスで、知っているものやこれまでに利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをお答えください。  
各サービスごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」、「いいえ」のどちらかに○をつけてください。

##### ①子育て支援サービスの認知状況

「知っている」という回答は、「福祉センターこどもの発達相談」が90.1%と最も多く、次いで「両親学級・母親学級」が85.9%、「保健サービスセンターの相談サービス」が70.4%、「教育センター・教育相談室」が53.5%となっています。

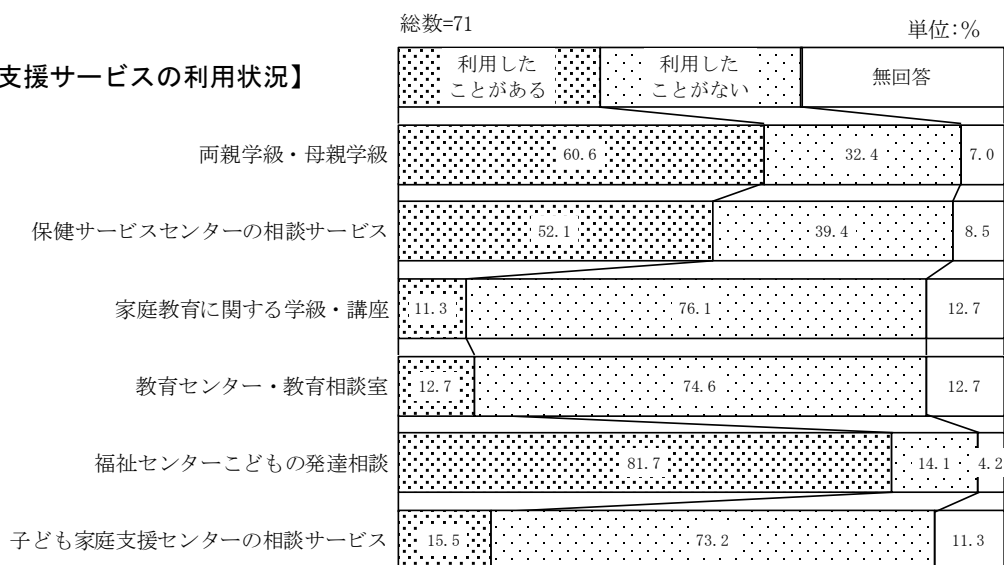
【問 24① 子育て支援サービスの認知状況】



##### ②子育て支援サービスの利用状況

「利用したことがある」という回答は、「福祉センターこどもの発達相談」が81.7%と最も多く、次いで「両親学級・母親学級」が60.6%、「保健サービスセンターの相談サービス」が52.1%、「子ども家庭支援センターの相談サービス」が15.5%となっています。

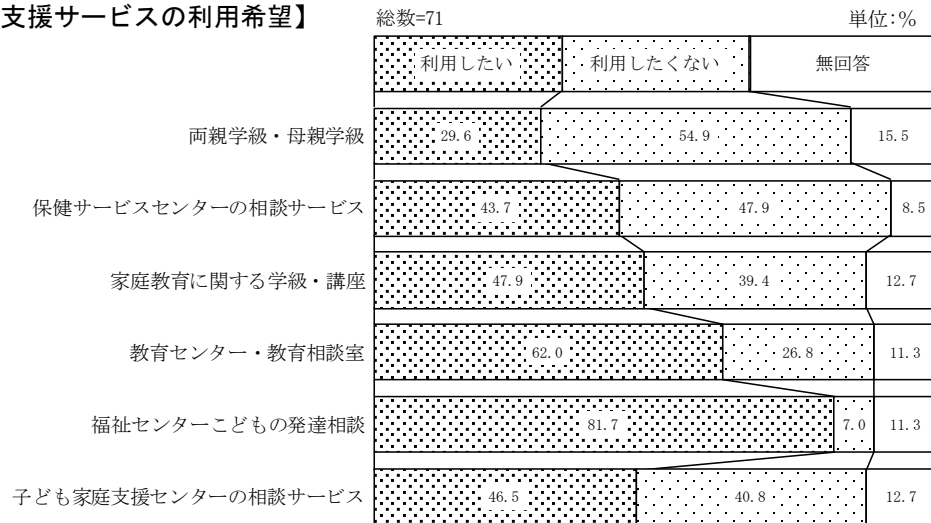
【問 24② 子育て支援サービスの利用状況】



### ③子育て支援サービスの利用希望

「利用したい」という回答は、「福祉センターこどもの発達相談」が81.7%と最も多く、次いで「教育センター・教育相談室」が62.0%、「家庭教育に関する学級・講座」が47.9%、「子ども家庭支援センターの相談サービス」が46.5%となっています。

【問 24③ 子育て支援サービスの利用希望】



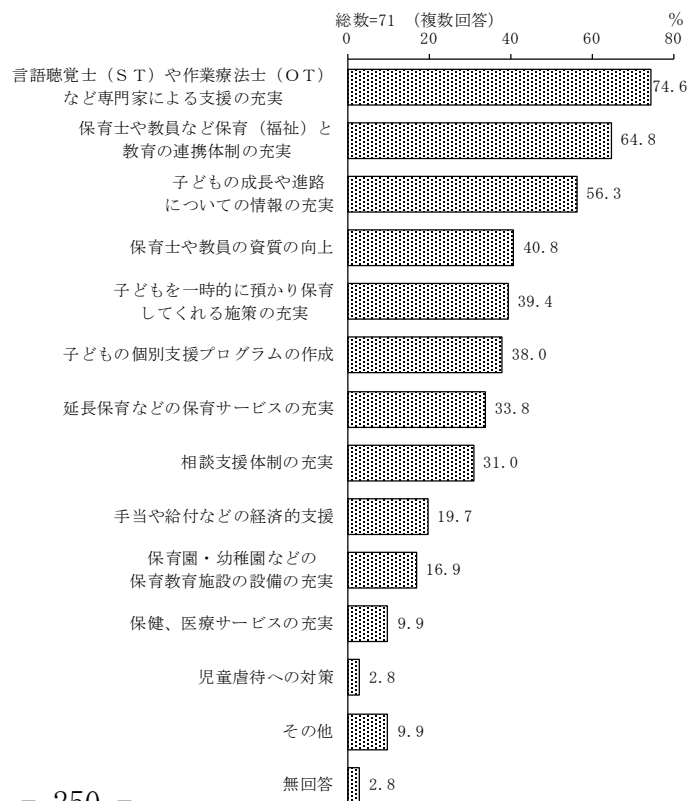
### (5) 特別な支援・配慮を必要とする子どもを持つ家庭への支援策

問 25 特別な支援・配慮を必要とするお子さんを持つ家庭への支援策として、充実させてほしいものや取り組んでほしいものについて、次のうちからお選びください。

(特にあてはまるものを5つまで○)

「言語聴覚士（ST）や作業療法士（OT）など専門家による支援の充実」が74.6%と最も多く、次いで「保育士や教員など保育（福祉）と教育の連携体制の充実」が64.8%、「子どもの成長や進路についての情報の充実」が56.3%、「保育士や教員の資質の向上」が40.8%、「子どもを一時的に預かり保育してくれる施策の充実」が39.4%となっています。

【問25A 特別な支援・配慮を必要とする子どもを持つ家庭への支援策】



「保育士や教員の資質の向上」、「保育士や教員など保育（福祉）と教育の連携体制の充実」という回答の割合は区立保育園で多くなっています。

【問25B 特別な支援・配慮を必要とする子どもを持つ家庭への支援策（通園先別）】

上段：実数 下段：割合		全体	保育士や教員の資質の向上	連携体制の充実	保育士や教員などの充実	延長保育などの充実	子どもを一刻も早く預かる施策の充実	専門療法士（OT・ST）など	言語聴覚士の個別支援	子どもの個別支援	子どもの成長情報や進路
全体		71 100.0	29 40.8	46 64.8	24 33.8	28 39.4	53 74.6	27 38.0	40 56.3		
通園先	区立幼稚園	33 100.0	13 39.4	22 66.7	8 24.2	12 36.4	24 72.7	12 36.4	20 60.6		
	区立保育園	19 100.0	10 52.6	15 78.9	9 47.4	6 31.6	13 68.4	6 31.6	9 47.4		
	福祉センター	41 100.0	16 39.0	27 65.9	13 31.7	18 43.9	31 75.6	17 41.5	23 56.1		
	私立幼稚園・私立保育園	7 100.0	3 42.9	4 57.1	5 71.4	3 42.9	6 85.7	3 42.9	6 85.7		
	その他	4 100.0	3 75.0	3 75.0	2 50.0	2 50.0	4 100.0	2 50.0	1 25.0		
	無回答	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0	1 100.0		

上段：実数 下段：割合		相談支援体制の充実	児童虐待への対策	保育園・幼稚園などの設備の充実	保健、医療サービスの充実	手当や給付などの経済的支援	その他	無回答
全体		22 31.0	2 2.8	12 16.9	7 9.9	14 19.7	7 9.9	2 2.8
通園先	区立幼稚園	11 33.3	1 3.0	1 3.0	5 15.2	6 18.2	4 12.1	2 6.1
	区立保育園	5 26.3	-	7 36.8	-	3 15.8	1 5.3	-
	福祉センター	11 26.8	2 4.9	9 22.0	5 12.2	10 24.4	3 7.3	1 2.4
	私立幼稚園・私立保育園	3 42.9	-	-	-	2 28.6	-	-
	その他	1 25.0	-	-	1 25.0	1 25.0	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	1 100.0	-

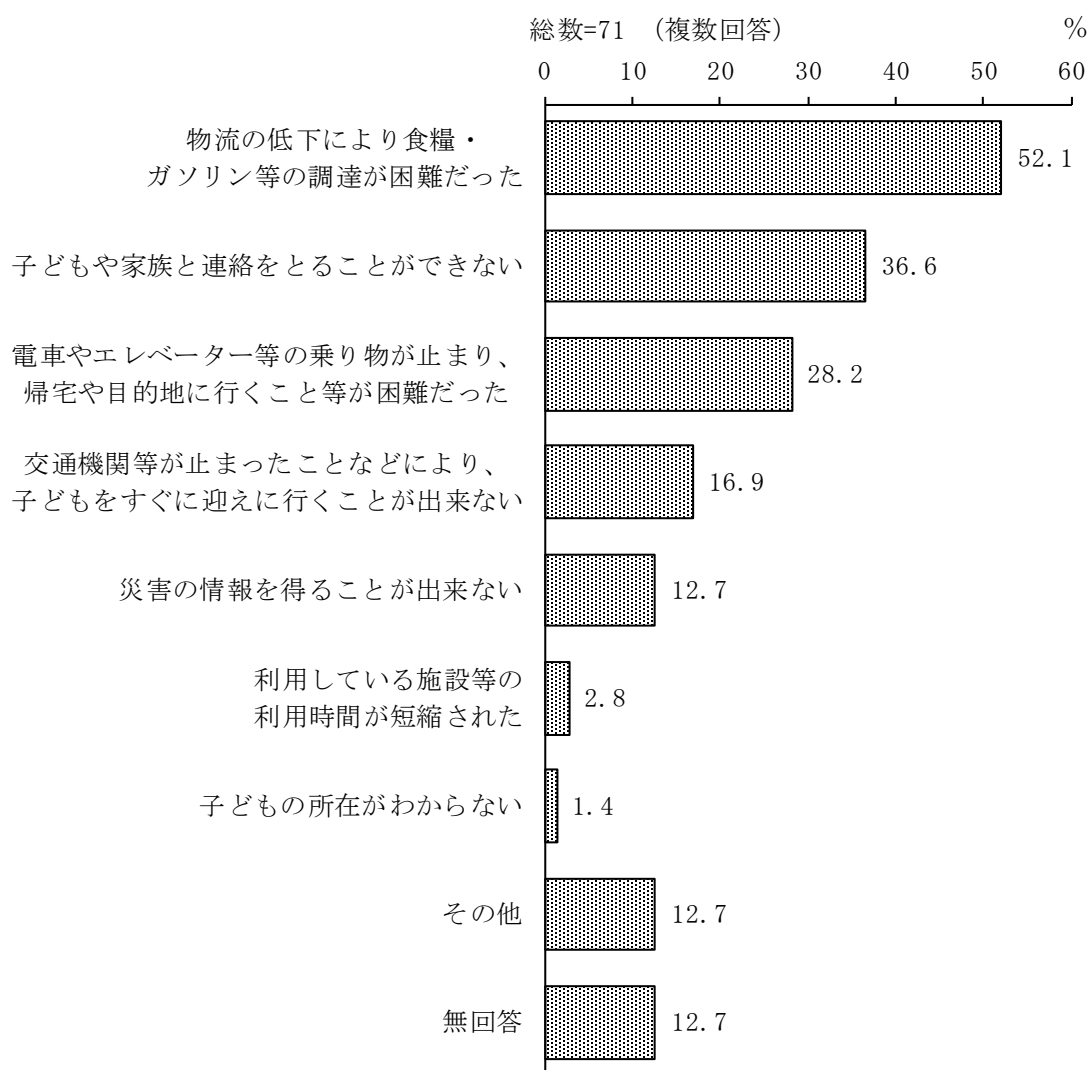
## 5. 災害対策について

### (1) 東日本大震災において困ったこと

問 26 東日本大震災（平成 23 年 3 月 11 日）において、あなたが困ったことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「物流の低下により食糧・ガソリン等の調達が困難だった」が 52.1%と最も多く、次いで「子どもや家族と連絡をとることができない」が 36.6%、「電車やエレベーター等の乗り物が止まり、帰宅や目的地に行くこと等が困難だった」が 28.2%、「交通機関等が止まったことなどにより、子どもをすぐに迎えに行くことが出来ない」が 16.9%、「災害の情報を得ることが出来ない」が 12.7%となっています。「その他」では、「ガラスが散乱し、後片付けと子どもの安全確保に困った」などの回答がありました。

【問 26 東日本大震災において困ったこと】



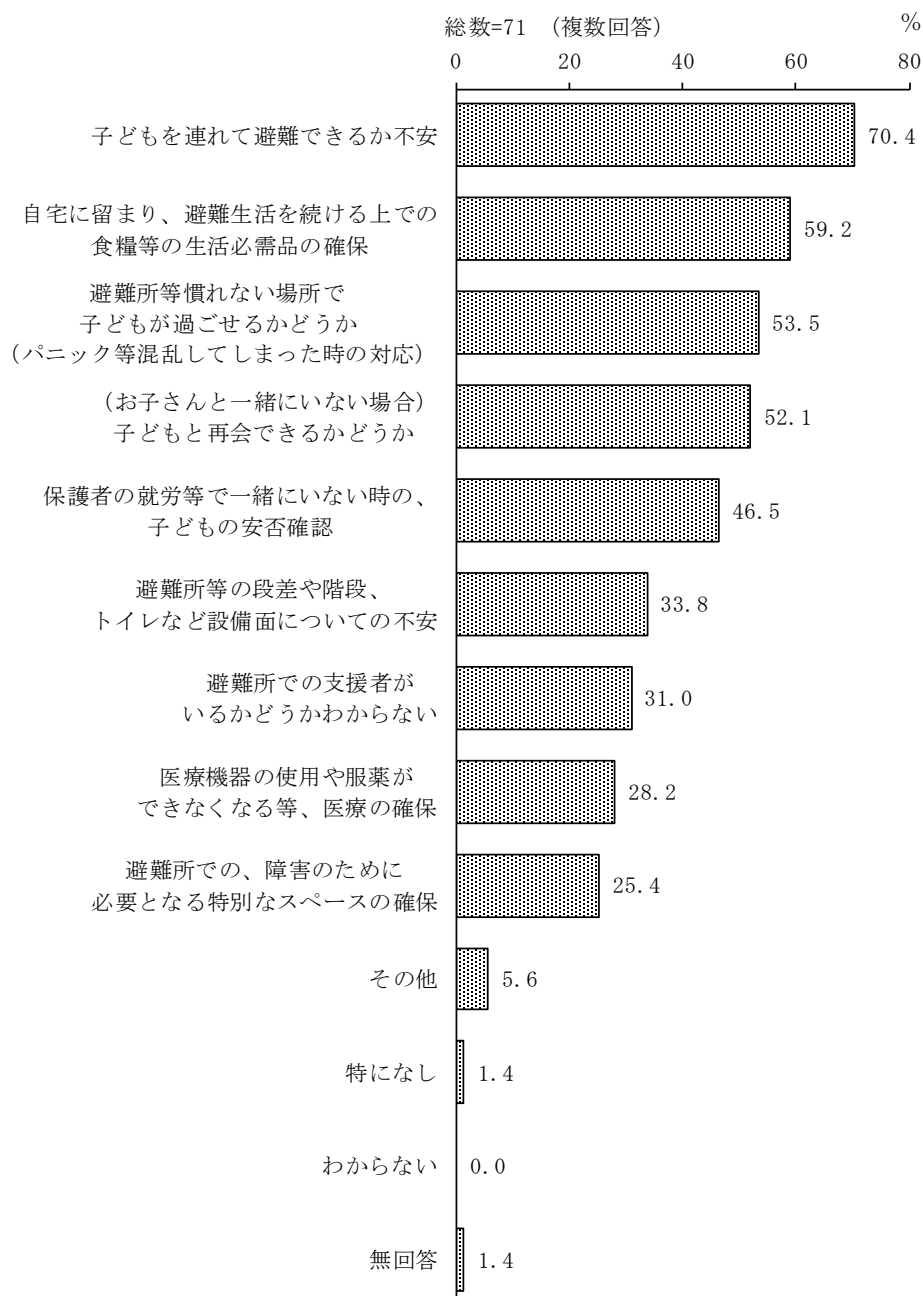


## (2) 災害に関して不安に感じていること

問 27 地震や火事などの災害に関してあなたが不安に感じていることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

「子どもを連れて避難できるか不安」が70.4%と最も多く、次いで「自宅に留まり、避難生活を続ける上での食糧等の生活必需品の確保」が59.2%、「避難所等慣れない場所で子どもが過ごせるかどうか(パニック等混乱してしまった時の対応)」が53.5%、「(お子さんと一緒にいない場合)子どもと再会できるかどうか」が52.1%、「保護者の就労等で一緒にいない時の、子どもの安否確認」が46.5%となっています。

【問 27 災害に関して不安に感じていること】



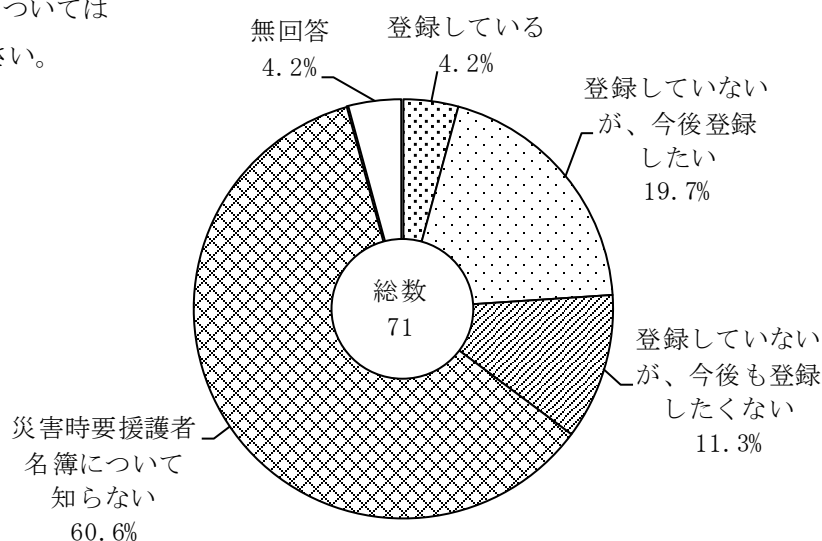
### (3) 災害時要援護者名簿への登録状況

問 28-① 災害時要援護者名簿についてお聞きします。あなたは現在登録をしていますか。(1つに○)

「災害時要援護者名簿について知らない」が60.6%と最も多く、次いで「登録していないが、今後登録したい」が19.7%、「登録していないが、今後も登録したくない」が11.3%となっています。

#### 【問 28-① 災害時要援護者名簿への登録状況】

※災害時要援護者名簿については  
48 ページをご参照ください。



### (4) 災害時要援護者名簿に登録したくない理由

問 28-② 問 28-①で「登録していないが、今後も登録したくない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

8人中2人ずつが「災害時要援護者名簿が地域の団体に配付されてしまうから」、「登録する具体的なメリットがない(わからない)から」、1人が「よくわからないから」と回答しています。「その他」と回答したのは3人でした。

## 6. 生活のしづらさについて

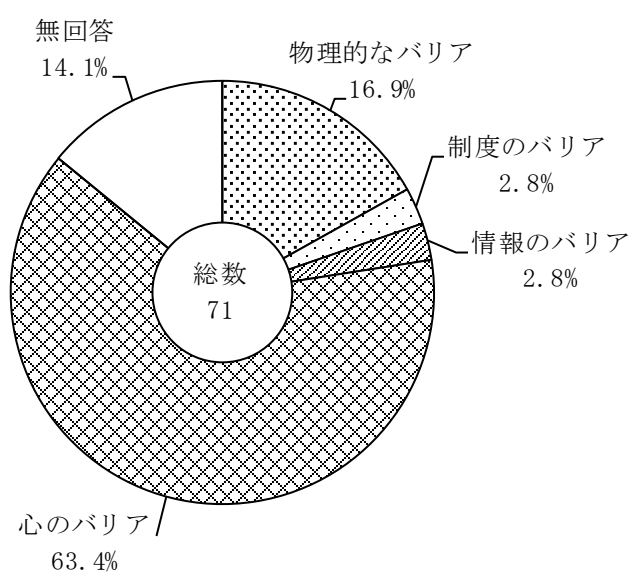
### (1) 日々の生活の中で感じるバリアについて

問 29 日々の生活の中で感じる生活のしづらさについてお聞きします。  
障害者が生活する中で不便と感じる事柄について、以下の4つのバリア(=“不便なこと・困ること”)に分けられるとされています。日々の生活の中で、あなたはどのバリアを1番強く感じますか。いずれか1つの番号を選び、○をつけてください。

※ 4つのバリアについては、51 ページをご参照ください。

「心のバリア」が63.4%と最も多く、次いで「物理的なバリア」が16.9%となっています。

【問 29 日々の生活の中で感じるバリアについて】

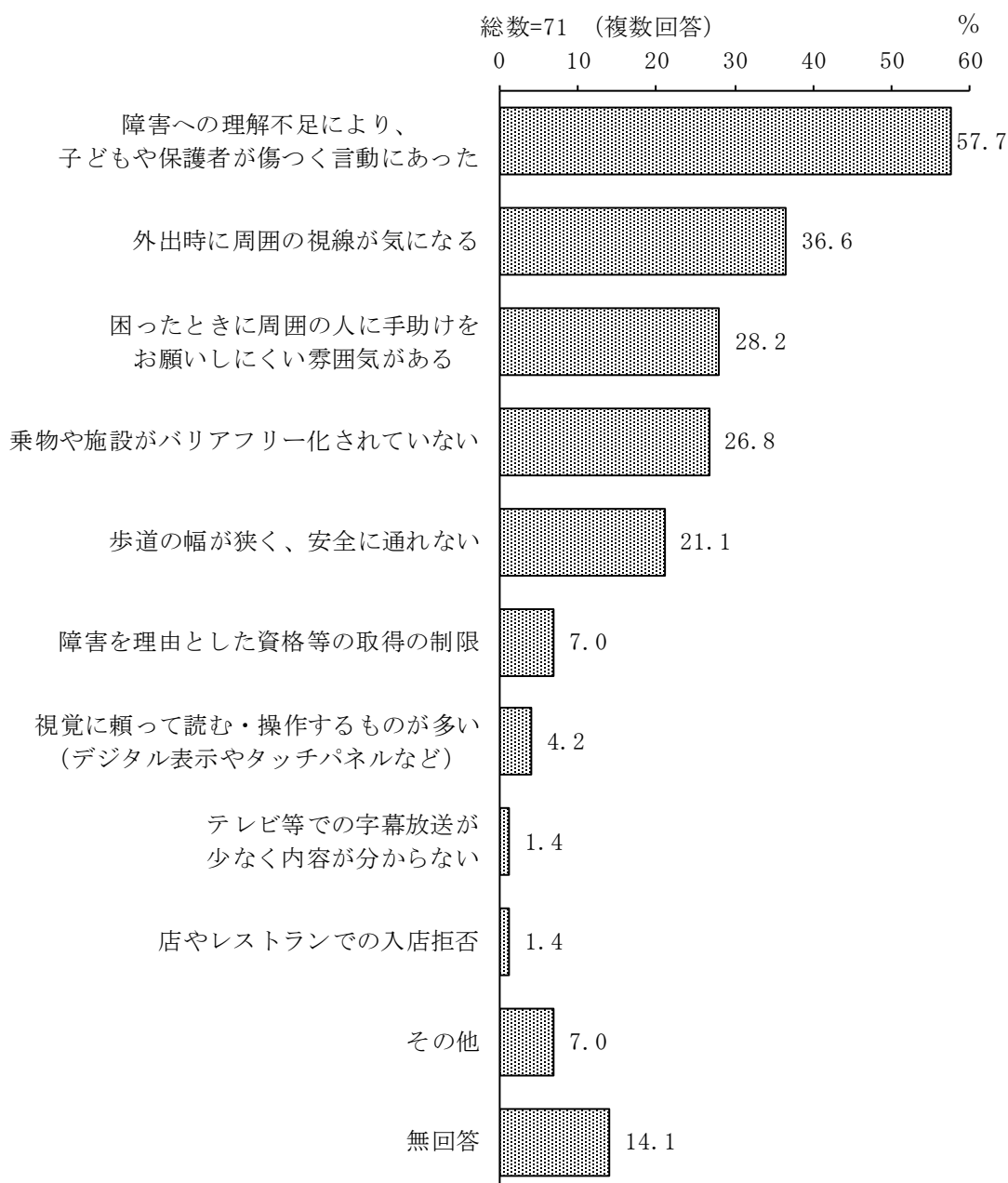


## (2) 障害者に対する理解不足や生活のしづらさを感じる理由

問 30 どのような理由で障害者に対する理解不足や生活のしづらさを感じますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「障害への理解不足により、子どもや保護者が傷つく言動にあった」が 57.7%と最も多く、次いで「外出時に周囲の視線が気になる」が 36.6%、「困ったときに周囲の人に手助けをお願いしにくい雰囲気がある」が 28.2%、「乗物や施設がバリアフリー化されていない」が 26.8%、「歩道の幅が狭く、安全に通れない」が 21.1%となっています。

【問 30 障害者に対する理解不足や生活のしづらさを感じる理由】

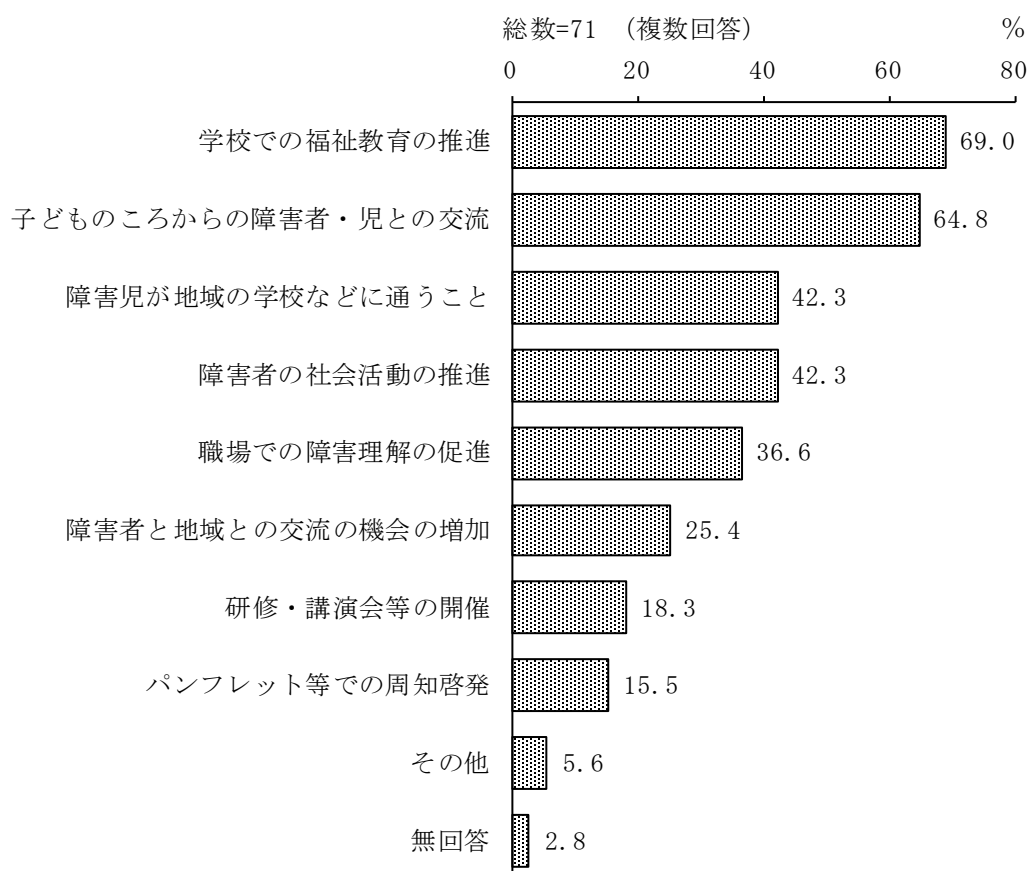


### (3) 障害理解を進めていくために必要なこと

問 31 どのように障害理解を進めていくべきだと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「学校での福祉教育の推進」が 69.0%と最も多く、次いで「子どもころからの障害者・児との交流」が 64.8%、「障害児が地域の学校などに通うこと」と「障害者の社会活動の推進」がそれぞれ 42.3%、「職場での障害理解の促進」36.6%となっています。

【問 31 障害理解を進めていくために必要なこと】



## 7. 自由意見

問 32 この調査を通じて選択肢やその他の欄等だけでは表現しきれなかったこと、ご意見などがありましたら、自由にお書きください。

自由意見は 37 件ありました。「保育・療育」についての意見が 70.3%と特に多くなっています。次いで「学校・教育」が 29.7%、「障害理解」が 21.6%、「福祉」が 18.9%となっています。

### 【問 32 自由意見】

上段：実数 下段：割合	総数	保育・療育	学校・教育	障害理解	福祉	生活環境	障害・疾患	情報・相談	行政	保健・医療	将来	その他
自由意見	37 100.0	26 70.3	11 29.7	8 21.6	7 18.9	6 16.2	4 10.8	3 8.1	2 5.4	1 2.7	1 2.7	7 18.9

### ◆主な意見（内容は要約・省略しています）

#### ①保育・療育

「保育士や学校の先生も発達障害についてもっと勉強してほしい。」（男性／手帳なし）

「子どもが通っている幼稚園では、特別保育の子が 6 人程いるにもかかわらず、加配の先生が 1 人もいらっしゃいません。バリアフリーパートナーの先生方のみです。早急に専門の加配の先生を増やして欲しいと切に願います。」（女性／手帳なし）

「福祉センターに通園、理学療法訓練を受けています。スタッフ等、人手不足なのか、どうしても時間に限りがあるように思います。通園日数、訓練の回数がもう少し増やせるようになれば良いと思います。」（男性／手帳なし）

「3 歳の頃から、医療機関、療育機関（NPO, 福祉センター）を利用させて頂き、幼稚園の先生方も特別支援に理解のある方ばかりと、恵まれた環境で 3 年間を過ごすことができました。おかげ様で、本人も私もとても成長し、特に困ることなく、楽しい日々を送っています。」（男性／手帳なし）

「療育機関での活動について、方針や目的、子供の成長・経過などの情報を明示してほしい。現状では、よくわからない。親の意向をきいてくれるのは有難いのですが、子供に合った療育を先生からアドバイスしてほしい。」（男性／手帳なし）

#### ②学校・教育

「小学校でも一人一人の成長を大切にしたい、きめこまかな特別支援の手法が、あたり前の

ことになってくれると、全ての子供が安心して、のびのびと生活し、健やかに成長していけると思います。『先生』と呼ばれる方のレベルアップを今後も期待しています。」(男性／手帳なし)

「全ての区立小中学校をインクルーシブな体制にしてほしい。特別な配慮を必要とする子ども・しない子ども双方にメリットがあると思う。一緒にいるのがあたりまえ、となってほしい。障害者に対する理解、インクルーシブな社会の実現は、幼いころから共に育つことが不可欠だと思う。」(女性／知的障害)

「小学校の生活については未経験のため、心配事が多いです。福祉センターに通えなくなってしまうこと(専門的な先生から母がアドバイスや情報を得られない)、育成室に障害児の定員があること、中学校以降の(放課後の)居場所や預け先など。」(男性／手帳なし)

「今後、不安なのは、入学後の育成室に通えるかどうか。該当育成室において、障がい児枠3名ではとても足りないと思う。」(女性／手帳なし)

### ③障害理解

「健常児(者)も障がい児(者)もみな平等に、幸せになる権利があります。障がいのある方が周囲の目を気にすることなく安心して生活できる、生きやすい社会をつくって下さい。」(女性／手帳なし)

「見た目には障害がわからないので公共の場で沢山の非難の言葉を受けたことがあります。理解を得られるような方法を考えて頂きたいです。」(女性／知的障害)

### ④福祉

「キッズルーム目白台にあて名の子供とその姉を預けようと思ったとき、健常な姉に比べてあて名の子供についていろいろ情報提供や提出物を求められ、精神的にも実務的(書類を揃える)にも負担を感じました。障害のある子供も当然のように預けられる施設の拡充と増設を希望します。」(男性／手帳なし)

「身体障害者への補装具について、所得制限がもうけられているが、これをなくして頂きたい。車椅子や座位保持椅子などの補装具は肢体不自由児にとって、就学時や生活上必ず必要となるものであるのに、購入の際公費を受けるのに所得制限があるのは不公平である。」(男性／身体障害、知的障害)

「障がいを持った子も行きやすい子育て広場のような場所があるといいと思いました。現在ある子育て広場は、障がいのある子には行きづらそうな感じがします(今あるところで共に過ごせばよいのですが)」(女性／手帳なし)

「兄姉の学校行事などの時に息子を連れて参加するのが困難だった時に、短期保護事業の施設にお世話になることもあり、大変助かりました。今後もこのような事業を必要としている方々のために、発展し、広く社会に浸透していくことを願っております。」(男性／手帳なし)

## ⑤生活環境

「私の子供は男児です。私とは性別が違う為、今後子供が大きくなった時の外出時のトイレが心配です。」(男性/知的障害)

「災害時、道路状況が悪化してベビーカー(車両)の使用が困難になった場合、少し遠方の福祉センターから歩けない子を連れて帰り、さらに上の子を幼稚園、又は小学まで迎えに行って自宅近くの避難所までたどり着けるのか、状況が全く想像できないだけに今一番不安に感じています。」(男性/手帳なし)

「公共施設(学校や保育園なども)のバリアフリー化が非常に遅く、通園・通学するのに非常に困難な状況です。是非とも早い時期にバリアフリー化をお願いしたいと思います。又、肢体不自由児の通園・通学の方法も是非検討頂きたいと思います。」(女性/身体障害)

「子供がバギーで移動しているので、出かける先までの段差あるなしを常に気にしています。特に都バスは車内はバリアフリーになりましたが、降車時は段差が大きいところが多く、バギーを子どもごと、かつがないといけない場合が多く、子どもが大きくなってきているので、今後も利用できるか不安です。」(女性/身体障害)

## ⑥障害・疾患

「3歳までは『しゃべらない』『情緒不安定』などの発達障害傾向が強い子供でしたが、幼稚園に通うようになってから劇的に改善しました。最近是非常におしゃべりで、普通の子供と大きな差異を感じなくなっています。」(女性/手帳なし)

## ⑦情報・相談

「障害児(者)をもつ親や家族の交流の場があれば良いなと思うことがあります(あるのかもしれませんが)。『こんな時どうしていますか?(どうしたらよいですか?)』など、困っていることに、アドバイスがほしい時があります。」(男性/知的障害)

「肢体不自由児に関する情報が少なすぎて、情報を収集するのが大変困難です。」(女性/身体障害)

「福祉センターのこどもの発達相談の存在は、困った子どもを持つ親にとってとても必要なものであると思います。」(男性/手帳なし)

## ⑧その他

「福祉と教育(保育)との連携を密にしてほしい。幼稚園・保育園→学校→就労との連携も。継続的に支援してくれる場所・人があれば。」(男性/手帳なし)